

2024 年度
琉球大学総合技術部活動報告書

2025 年 6 月

巻頭言

総合技術部 ゼネラルマネージャー
木暮 一啓

総合技術部の発足から1年半ほどが経ったところで、そう言えば技術とは何だろう？と思い立ち、岩波国語辞典(第8版、2019年刊)を開いてみました。①科学の原理を(産業や医療・事務などの活動に)役立てて、ものを生産したり組織したりするしかた・わざ、②物事を巧みに(能率的に)行うわざ、とあります。②はごく一般的、日常的な言い方でしょう。しかし、①については、大学にいる人間として多少、違和感を覚えました。それは、技術は必ずしもものを生産したり組織したりするためにあるのではなく、逆に技術が科学を発展させることが重要なのでは、ということ。典型的には、近年の遺伝子解析技術の進歩が挙げられます。これによって生物の形、機能、行動、進化、など、それこそあらゆる面が遺伝子との関わりで説明されるようになり、生物学をがらりと変えました。他にも、見えなかった物を見えるようにする、測れなかった物を測れるようにする、行けなかった所に行けるようにする、1年かかった計算を1日でできるようにする、等の技術がどれだけ科学を発展させてきたことか。科学と技術は一方通行ではなく、常に双方向の関係、と捉えるべきではないでしょうか？

関連して、二つほど考えさせられることがあります。

まず、国語辞典を使う殆どの方は、自ら科学を発展させる立場にはないので、このような書き方をされても、納得し得ます。しかし、そうは思いつつも、例えば“はやぶさ”が宇宙から持ち帰った試料が、宇宙の謎を解き明かしつつあること、深海艇からもたらされる映像や資料が未知の生物の存在を明らかにすることなどは、よくニュースで流されています。技術が科学を進歩させる典型的な例でしょう。さらに、ごく近年の生成 AI 技術の発展は科学を飛び越えて人間生活の隅々にまで影響を及ぼしています。

もう一つ考えさせられるのは、まず科学があつてその次に技術があるというこの書き方です。これは、大学における職員の関係を妙に的確に表しているように思います。我が国の大学では教員が教授会などの組織を通じて大学の運営に関わり、それを事務系の職員が支える形が一般的です。しかし、科学と技術との関係が双方向であるにも拘わらず、技術職員の位置付けは不明なままでした。私が理想とするのは、教員、技術職員、事務職員それぞれが対等な立場で物を申しながら、大学を発展させていく姿です。そうすれば、大学にはもっとよい緊張感が生まれ、研究力、さらには総合力がもっとアップするはずです。

琉球大学の総合技術部の発足はその理想形への第一歩です。わずか1年半の間に随分多くの新しい試みがされてきました。その経験は新たな大学への一歩でもあります。この報告書からそれを読み取って頂くとともに、大学、そして社会における技術の持つ意味について考えるきっかけとして頂ければ幸いです。

「総合技術部活動報告書」の発刊にあたって

総務・企画戦略担当
マネージャー 勢理客 勝則

この度「琉球大学総合技術部活動報告書」を発行いたしました。この報告書は琉球大学の技術支援組織として総合技術部が創設されてから約 1 年半の様々な取組を凝縮した活動報告書であり、本号が創刊となっております。

2023 年 10 月琉球大学総合技術部は各キャンパスに点在していた技術職員集を集約し、本学の教育・研究力向上のために設置された技術支援組織であり、全国でも他に類を見ないフラットな組織体制をとっております。総務・企画戦略担当マネージャーの業務として技術組織の管理運営、特に勤怠管理や人事管理(採用・評価)と技術職員という職種では初めて関わる部分を務めています。まだ若い組織であるため、今後は技術職員の技術の向上・継承などの人材育成を実施することはもとより、技術組織を運営するにあたりマネジメント力を併せ持つ人材育成にも注力していきたいと思っております。またフラットな組織体制を大いに活用し、分野横断的な技術支援や外部資金獲得の推進、地域貢献活動の活性化等、他機関との交流も取り込みつつ、本学の教育・研究支援の強化を図りたいと思います。末筆になりましたが、皆さまのより一層のご発展を心よりお祈りいたします。

広報・地域貢献担当
マネージャー 屋良 朝宣

私は広報・地域貢献担当マネージャーとして、主に総合技術部の広報活動と地域貢献活動に関わる場所に力を入れてきました。その中で、これまでに本学にいながらも、一緒に働くことなどがなかった技術職員の多くが集まり、協力して地域の親子向け科学技術啓発イベントとして琉大 iTec フェスタを開催し、さらに沖縄県内の小学校や社会教育施設等での出前授業や公開講座を数多く実施できたことを大変嬉しく思っています。また、総務部総務課広報係と総合技術部広報グループの協力のもと、大学が発刊している「琉球大学概要」や「琉球大学統合報告書」にしっかりと総合技術部に関する情報を記し、技術職員の活躍の様子を大学公式 HP あるいは総合技術部 HP 等を活用して情報発信できたことに大変感謝しております。

私が所掌した主たる業務グループ内には千原キャンパスや上原キャンパスだけでなく、北は本部町と国頭村、南は竹富町(西表)にある施設でそれぞれ活躍する技術職員で構成されていたことから、沖縄県内広域にある琉球大学関連施設での技術職員の取組みに思いを巡らすことが著しく増えました。これは私自身が琉球大学の事をより深く知るためのとても良い機会になりました。最後になりましたが、活動報告書第 1 号の発刊にあたり、ご支援とご協力いただいた皆さまにお礼申し上げるとともに、総合技術部職員一丸となって新たな課題や改善に取り組み、本学の発展と地域貢献に邁進したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

研修・教育担当
マネージャー 田邊 恭佳

この度、総合技術部発足して初めての活動報告書を創刊する運びとなり、とても喜ばしく思います。

私は総合技術部として組織化されてから、研修・教育担当マネージャーとして組織運営に携わる機会を得ました。1年と少しのこの短い期間に多くのことを学ばせていただきました。勤怠管理や企画など数え上げればきりがありませんが、特に研修プログラムについては、多くの方に応募いただき研修の機会を創出できたこと、とてもうれしく思います。さらに研修で学んだことをオンラインの報告会という形で情報共有できたことはほかの技術職員への刺激になったのではないかと思います。さらに、iTec 報告会や Web 研修などグループリーダー主導により、充実した研修が行えたと感じております。

総合技術部発足前には考えられなかった技術職員同士の交流を図ることができたと、多くの方が共感されているのではないのでしょうか。今後も研修の機会を創り身に付けた技術を還元及び継承できるような体制づくりに精進したいと思っています。今回創刊される報告書を読み返すことにより、組織としてまた技術について復習するツールとして利用し、部外の方々には琉球大学総合技術部を知り、技術を知り、活用するために一読いただければと思います。

プロジェクト担当
マネージャー 儀間 真一

初の活動報告書発行にあたり、プロジェクト担当マネージャーとしてご挨拶申し上げます。

まず「プロジェクト担当とは？」という疑問を持たれると思いますが、主な担当業務は部局間や学外との調整が必要な案件です。具体的には、(1)各部局への短期派遣およびプロジェクト等に派遣する職員の調整、(2)学内外から寄せられる技術支援依頼への対応、(3)コアファシリティ事業との連携や学内共用機器の管理運営に関する業務等です。派遣・技術支援依頼では、各部局等から寄せられる多様な要望に対し技術相談窓口を設置して的確な人材配置に努めてまいりました。運用体制に関してまだ課題も多いですが、依頼者や関係各位からのフィードバックを取り入れて、より迅速かつ丁寧な対応を心がけていきます。コアファシリティ事業・学内共用機器管理運営においては、いくつかの共用機器で管理者育成の取り組みを始めています。今後更にこの輪を広げていき、将来的には「共用機器のことは総合技術部にお任せください」と言えるような体制を作りたいと考えています。

総合技術部は、まだ設立されて間もない組織であり、発展途上の段階にあります。しかし、今回の活動報告書の発刊を機に、これまでの活動を振り返り、反省点を洗い出し、更なる発展に向けて努力していく所存です。今後とも、総合技術部へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

目 次

巻頭言	I
「総合技術部活動報告書」の発刊にあたって	II
琉球大学総合技術部(iTec)について	1
組織体制	1
各グループの業務紹介および業務業績	2
電気電子グループ	3
情報グループ	5
建設基盤グループ	7
設計製作グループ	9
フィールド技術グループ	11
食とヘルスケアグループ	13
生物・生体技術グループ	15
研究室運営支援グループ	17
機器分析グループ	19
環境安全管理グループ	21
人文社会グループ	23
企画戦略グループ	25
総務グループ	26
RX グループ	27
広報グループ	28
地域貢献グループ	29
研修教育グループ	30
業務依頼グループ	31
職員実績	32
投稿論文(筆頭・共著)	33
投稿論文(謝辞)	34
講演・発表	35
受賞・表彰等	36
特許等	37

外部資金.....	37
研修.....	38
出張.....	40
地域貢献活動	42
公開講座.....	43
出前講座.....	44
琉大 iTec フェスタ	46
iTec 報告会.....	50
研究助成プログラム	53
資格取得.....	55

琉球大学総合技術部(iTec)について

これまで琉球大学においては、技術職員は各部局に配置されており、提供する技術分野の偏りや、異分野との連携不足、技術継承の困難さ等の課題があった。一方で、我が国では研究力向上のための施策(研究力向上改革 2019)の一つとして、研究基盤の運営を支える技術専門人財の育成・確保が掲げられており、本学においても研究基盤である研究設備・機器の維持管理に深く関わっている技術職員の高度化は大学における研究基盤の強化や効率化のために重要な位置付けとなっていた。そのような中、令和 3 年 6 月に大学・研究機関等の研究基盤の戦略的な運用や共用するための仕組みづくりや、研究設備・機器の維持管理に必要な技術職員の組織的な育成・確保するための仕組みづくりを支援する先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)に採択されたことから、大学内の技術職員を一元化した全学組織化の議論が促進され、令和 5 年 10 月には本学の技術支援組織として 84 名の技術職員からなる総合技術部(Integrated Technology Center, University of the Ryukyus 愛称:琉大 iTec)が設立された。

琉球大学総合技術部は、研究推進に必要な技術・知識を有する専門人材を全学的な観点から効率的・効果的にマネジメントするために設立された。また総合技術部は、琉球大学における教育および研究を支援する技術の向上・高度化及びサービス機能の強化、技術の効率的かつ持続的な継承の実現等を通じ、大学が有する強みを生かした教育・研究力の強化及び地域社会への貢献を目的としている。

組織体制

琉球大学総合技術部はゼネラルマネージャー(研究担当理事)をトップに、シニアマネージャー、マネージャーを構成員としたマネジメント部門(マネジメントオフィス)にて業務を振り分け、各技術職員および業務グループが業務を実行している。

また、総合技術部の運営に関する審議機関として総合技術部運営委員会、業務に関する審査機関として総合技術部会議を置き、各グループの申し合わせの制定等、柔軟な組織運営を行うための審議機関としてグループ会議を設置している。



総合技術部組織図

各グループの業務紹介および業務業績

電気電子グループ

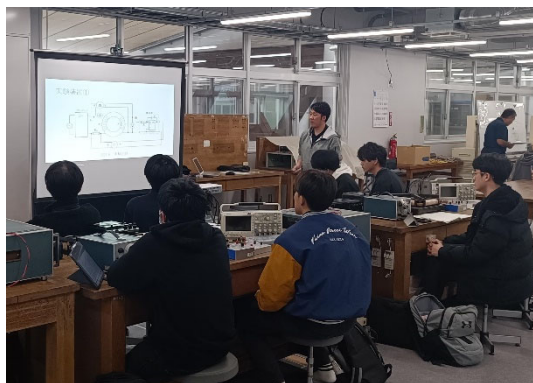
1. 業務内容

電気電子グループは電気・電子に関する技術を提供するグループである。メンバーは工学部技術支援室電気電子班に派遣され、主として工学部工学科電気電子系コース(電気システム工学コースおよび電子情報通信コース)の支援を行っている。

2. 業務実績 派遣先(工学部技術支援室電気電子班)

2.1 教育支援

- ・電気電子系コースの学生実験(表1)
- ・講義「エンジニアリングデザイン基礎」
- ・電気電子工作室の管理・運営



学生実験の指導



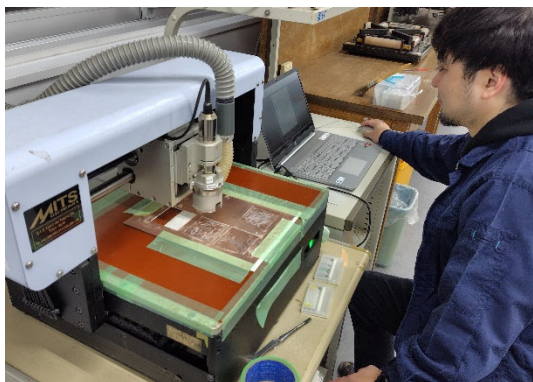
工作室利用者講習会

担当した学生実験

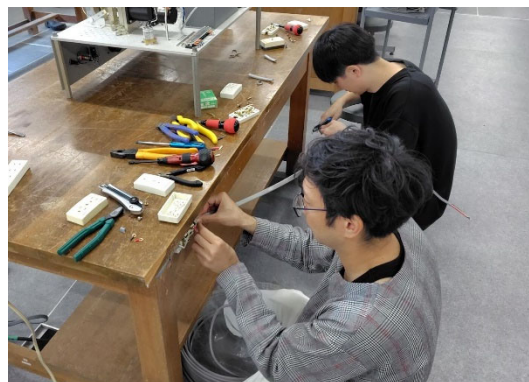
講義名	開講年次	受講人数	担当テーマ数
電気電子基礎実験	2 年次後期	107	6
電気電子応用実験	3 年次前期	81	6
電力工学実験	4 年次後期	35	6
電子情報通信実験	4 年次後期	81	1

2.2 研究支援

- ・研究用実験装置および部品等の製作
- ・工作指導、技術相談
- ・電気電子系コースのサーバ管理・運用
- ・電気電子系コース関連施設の安全巡視



研究用基板の製作



実験室コンセンツの取り換え作業

2.3 地域貢献

- ・琉球大学公開講座(一般:3 講座, 子ども:4 講座)
- ・出前講座

2.4 事務支援

- ・電気電子系コース事務職員不在時の対応
- ・各種入試業務支援
- ・各種委員会、会議への参加

2.5 工学部外業務

- ・琉大ハカセ塾、琉大カガク院での授業提供
- ・サンゴ幼生飼育水槽の攪拌機製作依頼



第二種電気工事士試験対策講習(実技)



琉大カガク院での授業提供

3. 業務実績 総合技術部

琉大 iTec フェスタでの企画の計画・実施

- ・ホバークラフト
- ・ミラクル万華鏡
- ・まわりつづけるコマ
- ・電気工事体験

情報グループ

1. 業務内容

情報グループは、学内施設における各種システム管理、サポートサービス、情報分野に関する実験実習の補助を行う。派遣先は「情報基盤統括センター」「工学部技術支援室」「理学部数理学科」の3箇所、各派遣先での業務を請けながら情報系職員同士で技術交流を進めている。

2. 業務実績 派遣先(工学部技術支援室情報班)

2.1 工学部技術支援室

工学部技術支援室の中にある情報班に3名が所属し、主に工学部知能情報コースへの支援業務を請負っている。

- 知能情報基礎演習は知能情報分野の基礎知識を学ぶ演習で、その講義の補助や実験機材の整備を技術職員が担当し、学生の学習を支援している。
- エンジニアリングデザイン演習では、3年次を対象に専門知識の習得を目的とし、担当教員ごとに10名程度のグループに分かれて長期実験を行う。この中で、技術職員はサーバ管理やネットワーク管理に関するサポートを実施している。
- プログラミングI・IIおよび演習I・IIでは、1年次を対象にPython、Java、C言語といったプログラミングの基礎教育を行う。この質問対応や学習環境整備を支援している。
- 卒業研究支援では、依頼ベースで学生や教員向けに実験機材の製作やメンテナンスを提供し、必要に応じて長期的な支援も行う。
- 知能情報コース内の支援業務として、安全巡視や指摘事項の改善、コース備品の管理、システム保守などを行う。特に、講義に必要なPCやタブレット端末を貸し出し、急な故障にも対応できる体制を提供する。
- コースが提供するサーバやクラスター環境について、構築・運用、障害対応を目的とした週次ミーティングで学生と協力して行い、メールやWeb、認証系などの重要なネットワークサービスを維持する。
- 学部事務支援として、入試広報や試験対応、Webサーバ管理も担当し、コース運営を包括的に支える。

2.2 情報基盤統括センター

- 情報基盤統括センターには3名の職員が所属している。ここは学内共同研究施設として琉球大学における情報システム及び情報ネットワークシステムの整備、運用及び研究開発を行い、情報システムを本学の教職員及び学生の利用に供するとともに、教育研究及びそれを支援する事務に係る情報システムの高度化を図ることを目的としている。
- 情報基盤統括センターの下記の業務を円滑に行うよう支援している。
 - (1) 情報化施策に係る計画の実施に関すること
 - (2) 情報システムの整備及び運用管理に関すること
 - (3) 情報通信技術の研究開発及び利用支援に関すること
 - (4) 本学の情報教育に関すること
 - (5) 学内情報ネットワークの運用管理に関すること

- (6) 学外情報ネットワークとの連携及び利用に必要なサービスの提供に関すること
- (7) 情報セキュリティに関すること
- (8) その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること

2.3 理学部数理科学科

- 数理科学科事務室では、数理科学科の運営補助(数理図書室の運営、教員の予算管理、非常勤講師・TA の手続き、共済関係、学科の教室管理等)を行う。



業務風景

3. 業務実績(総合技術部)

3.1 オープンアクセス加速化事業研究データ基盤ストレージ事業

オープンアクセス加速化事業研究データ基盤ストレージ事業の仕様策定、及び設計プロジェクトへ参画した。これは、国立情報学研究所の提供する GakuNinRDM を拡張する外部ストレージの調達を通じてオープンアクセスサイエンスのための基盤整備に貢献することが目的のプロジェクトである。研究推進課及び附属図書館と協業して仕様策定や設計を進めている。

3.2 OIST 技術交流

OIST の Neurobiology Research Unit との技術交流を行った。バイオインフォマティクス分野における情報系技術のあり方を検討し交流を深めるもので、ネズミの脳にウイルスを入れて抗体染色を行う際に必要なデータ処理を行うとき、生体科学系だけではなく情報系の知見も必要であるということを確認した。このとき行われているプログラムをベースに将来の体制について議論した。

3.3 Teams 運用整備

総合技術部での情報共有のために基盤としている Teams チャンネルの運用を行っている。メンバー・チャンネル・タグの改廃、必要な設定などを都度行い、勤務場所も勤務体系も異なる総合技術部の円滑な情報共有に貢献している。

建設基盤グループ

1. 業務内容

建設基盤グループは、土木建築分野を専門としたグループである。通常は、工学部技術支援室で、工学部工学科の社会基盤デザインコースと建築学コースで実施される学生実験、測量学実習、演習講義などの教育面と、研究室で行われる研究実験の研究面で、器具取扱い指導、試験機操作などの技術提供を行っている。そのほか、工学部での入試やオープンキャンパスなど行事への協力や、工学部技術支援室の運営も行っている。

2. 業務実績 派遣先(工学部技術支援室建設基盤班)

2.1 学生実験、実習、演習講義への技術提供

- ・学生実験(コンクリート工学実験、地盤工学実験、水工学実験、建築環境工学実験、建築材料構造実験、建築基礎構造)での器具取扱いや進め方の指導
- ・社会基盤デザインコースの「測量学実習 I」、「測量学実習 II」、建築学コースの「測量学」の受講学生への測量機器取扱い指導と、測量機器の管理
- ・講義(鋼構造(学部)、鋼構造特論(大学院))における鋼材引張強度試験のための万能試験機操作
- ・そのほか、キャリアデザイン、エンジニアリングデザイン、シミュレーション工学、港湾工学、プロジェクトマネジメントの講義や演習での運営支援や学生への指導補助

2.2 研究室への技術提供

- ・鋼材防錆防食法にかかわる研究にかかわる分析支援、材料加工、現地調査同行
- ・コンクリートの塩害およびアルカリ骨材反応対策に関する研究における現地調査(暴露試験場)や試験体分析支援
- ・材料強度実験のための万能試験機操作
- ・薬品の管理および廃液処理
- ・共用機器取扱い支援(LC-MS、SEM-EDX、顕微ラマン分光装置、イオンクロマトグラフィー、デジタルマイクロスコープ、紫外可視分光光度計など)
- ・研究室共同研究における実験、分析等の技術支援
- ・構造実験加力試験機装置ジャッキの組換え、および大型試験体設置に伴う天井クレーンおよびフォークリフト作業
- ・天井クレーン月次自主点検、年次自主点検の実施。(産学官連携棟大型実験室、工学科実験棟 A 構造実験室)
- ・フォークリフトの月次自主点検の実施

2.3 地域貢献活動

- ・第 6 回沖縄建設フェスタへ琉球大学建築学コースの出展協力として「折り紙建築」の実施
- ・工学部附属地域創生研究センター主催のブリッジインスペクター講習会の運営支援

2.4 その他

- ・琉球大学で開催の土木学会西部支部沖縄会技術研究発表会の発表原稿受付、会場設営等の運営支援
- ・琉球大学で開催された土木学会西部支部研究発表会にて、会場設営と当日の会場トラブル対応などの運営支援
- ・大学入学共通テストの工学部試験場での運営支援
- ・大学入学試験(前期日程)の工学部試験場での運営支援
- ・社会基盤デザインコース、建築学コースで実施される推薦入学試験での会場設営と受験生誘導
- ・オープンキャンパスでの社会基盤デザインコースおよび建築学コース見学者の誘導や、研究紹介への協力



天井クレーン月次自主点検の様子



フォークリフト月次点検の様子

3. 業務実績 総合技術部

- ・夏休み工作教室、iTec フェスタ、出前講座で、「折り紙建築」を実施した。
- ・建設業界における DX 推進として、教育の場および技術職員からの貢献を図るため、関連業者との連携を検討した。意見交換会 2 回、技術者養成施設の視察 1 回(2 名派遣)。



琉大 iTec フェスタ「折り紙建築」の様子



建設業界 DX 推進にかかわる意見交換会の様子

設計製作グループ

1. 業務内容

工学部工学科の機械工学コース及びエネルギー環境工学コースの実習・演習・実験等の教育支援、卒業論文、修士論文作成のための実験装置・実験試料の製作等の研究支援を行っている。また、工学部附属工作工場の利用者へ機械の取り扱い方法や安全作業の指導を実施している。さらに工学部の他コース、工学部以外からの技術相談や機器製作等にも対応している。総合技術部、工学部技術支援室の運営も携わっている。

2. 業務実績 派遣先(工学部技術支援室設計製作班)

2.1 教育研究支援

① 授業科目

- ・工学基礎演習(機械工学コース1年次)
- ・機械製図(機械工学コース1年次)
- ・材料加工学実習(機械工学コース2年次)
- ・機械基礎演習(機械工学コース2年次)
- ・ものづくり基礎演習(エネルギー環境工学コース2年次)
- ・エンジニアリングデザイン演習(3年次)
- ・機械工学実験Ⅰ、Ⅱ
- ・機械設計製図
- ・材料生産工学概論

② 実験装置、実験試料の製作

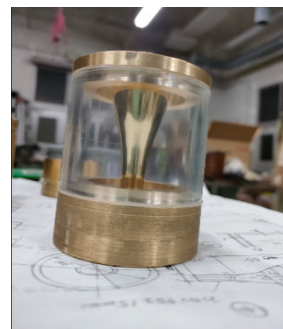
- ・SUS306 平釜の製作
- ・腐食実験用アクリルセルの製作
- ・引張試験片の製作
- ・ベルトコンベヤの製作
- ・NF エンジン移設用エンジンマウントの製作
- ・液滴腐食試験におけるノズル位置調整ジグと調整システムの製作
- ・チャンバー製作
- ・NFAD5 エンジンの延長ピストンの製作
- ・電気化学測定セルへの塩橋設置板の製作
- ・パルスジェット班燃料ノズルの製作
- ・腐食実験用セルの製作
- ・サポートパーツの製作
- ・風車用羽根車の加工



材料加工学実習



液滴腐食試験装置



プレフィルミングアトマイザー

③ 実験装置の整備・補修

- ・混錬機修理
- ・放電プラズマ焼結装置の冷却水装置修繕
- ・気象観測測定機器の移設
- ・内燃機関総合性能試験装置の整備と動作確認
- ・油圧プレス機の油補充作業
- ・流体実験室内の実験装置解体作業
- ・レイノルズ数乱流層流実験装置
- U 字管マノメーター修理



混錬機修理

2.2 工作工場の維持管理

- ① 工場内工作機械の年 1 回の定期整備
- ② 工作機械故障時の修繕
- ③ 測定器、工具の維持管理
- ④ 工場利用時の安全教育
- ⑤ 工作工場 A 棟の改修工事に伴う移設物品の
梱包作業、廃棄機械・廃棄物品の搬出



工作工場 A 棟

2.3 工学部・コースの運営支援

- ① 入試業務(大学入試共通テスト、推薦入試、3 年次編入学試験、大学院入試)
- ② コース事務員不在時の対応
- ③ 安全巡視及び指摘事項の改善
- ④ 機械工学コース・エネルギー環境工学コース会議へ出席
- ⑤ 学会・講演会の支援
- ⑥ キャリア形成支援セミナーと就職説明会の支援

2.4 機械系以外からの製作依頼

(1) 工学部内

- ① ガラスホルダーの製作
- ② 金型製作
- ③ 疲労引張試験片の厚さ切削加工

(2) 工学部外

農具改良プロジェクト(農学部)



疲労試験片の切削加工

3. 業務実績 総合技術部

(1) 学外との連携

- ① 金型センター
- ② ものづくりネットワーク

(2) iTec フェスタ、夏休み工作教室、出前講座への参加、協力

フィールド技術グループ

1. 業務内容

フィールド技術グループは、農学部附属亜熱帯フィールド科学研究センター千原フィールド・与那フィールド、熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設および西表研究施設にて、フィールド実習や卒業研究・共同研究等の支援、各圃場・施設ならびに周辺的环境整備、機械・道具等の整備や管理といったように業務は広範囲かつ多岐にわたる。

2. 業務実績 派遣先

2.1 亜熱帯フィールド科学研究センター 千原フィールド

農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター千原フィールドには作物班、園芸班、畜産班、農業機械班、上原研究園班があり、フィールド実習や卒業研究、医学部保健学科や教育学部の実習補助などを行った。運営支援としては各圃場・施設ならびに周辺的环境整備、機械類の整備と管理、会議や出張、研修への参加、地域貢献活動や学内外からの依頼業務への対応、データ整理を行った。

- 1) 2023 年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会の開催(2023 年 11 月 1 日～2 日)
40 年振りに沖縄で開催され、全国から 46 大学が参加し、農場内で畜産関連の研修も提供した。
- 2) 2024 年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会の開催(2024 年 8 月 28 日～29 日)
九州地域 7 大学から 27 名が参加し、農場内で農業機械の研修も提供した。技術職員教育研究発表会では鈴木が業務に RX を活用した内容について発表し、優秀賞を受賞した。
- 3) 東海国立大学機構 職員(CFA)2 名との技術交流および意見交換の実施
フィールドセンターにおける業務を通じた研修・交流を実施し(6 名)、さらに研究基盤統括センター職員(3 名)と意見交換した。



全国農場協議会
での技術研修



九州農場協議会
での技術研修



東海国立大学機構の職員
(CFA)との技術交流

2.2 亜熱帯フィールド科学研究センター 与那フィールド

与那フィールドには森林班があり、実習など教育活動の支援、「モニタリングサイト 1000」などの研究活動の支援、下刈りなどの森林の管理、施設の管理を行った。

- 1) 亜熱帯林体験実習(公開森林実習)(2024 年 9 月 3 日～)が行われ全国から学生の参加があった。
- 2) 環境省と共同でワークショップ(2024 年 12 月 8 日)を開催し、一般参加者から 7 名の参加があった。



亜熱帯林体験学習



ワークショップ

2.3 熱帯生物圏研究センター 瀬底研究施設

瀬底研究施設では当施設所属教員・学生の研究支援業務を行った。船舶の運行や潜水等によるフィールド活動支援、陸上の飼育水槽の立ち上げ補助・管理などの飼育実験支援を行った。また、公開臨海実習・海洋生物生産学実習Ⅷ・進化生態学実習Ⅷを支援した。運営支援として施設周辺の環境整備、潜水器具の整備と管理、共用実験機器の管理、会議・ミーティングや出張、出前講座での地域貢献活動、国内外から年間延べ 5000 人以上の施設利用者受け入れ業務を行った。



公開臨海実習



フィールド活動支援

2.4 熱帯生物圏研究センター 西表研究施設

西表研究施設では当施設所属教員の研究支援業務を行った。また、亜熱帯—西表の自然実習、世界自然遺産西表島実習、マングローブ生態系西表島実習、ドローン&フィールドサイエンス実習を支援した。また、運営支援として圃場・施設ならびに周辺の環境整備、機械・道具類の整備と管理、会議・ミーティングや出張、地域貢献活動や学内外からの依頼業務への対応を行った。



教員研修支援



亜熱帯—西表の自然実習



マングローブ生態系西表島実習

3. 業務実績 総合技術部

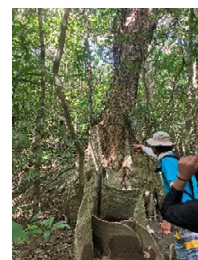
iTec フェスタにて、「ワイルド・ワンダーランド～自然の驚異と不思議を探求～」の企画立案・実施を行った。フィールド技術グループの目標である「人的・技術交流や情報交換を目的として、研修会を行う」に沿って、2024年10月21日～23日に熱帯生物圏研究センター西表研究施設において研修会を実施した。井村(西表)、石垣(西表)、金城(与那)、嘉手納(瀬底)、茅野(千原)、伊敷(千原)が参加し、施設案内やカヤックの操作、調査地の見学などを実施した。



西表研究施設の案内



カヤックの操作



調査地の見学

食とヘルスケアグループ

1. 業務内容

農学部および医学部における教育支援や運営支援を主軸に業務を実施している。その他活動として、個人やグループでの業務依頼や体験型の講座を実施している。

2. 業務実績 派遣先(農学部 亜熱帯生物資源科学科健康栄養科学コース、医学部保健学科)

2.1 教育支援

・農学部 亜熱帯生物資源科学科
健康栄養科学コース

- 1) 栄養学実験
 - 2) 解剖生理学実験
 - 3) 食品分析学実験
 - 4) 調理学実習
 - 5) 給食管理実習
- 他 6 件



調理学実習の様子

・医学部保健学科

- 1) 生活援助看護技術 I および II
 - 2) フィジカルアセスメント
 - 3) シミュレーション演習
 - 4) 母性看護実践学
 - 5) 高齢期看護実践学
- 他 4 件



洗髪演習の様子

2.2 運営支援

- 1) 講義・講演室や実習・実験室の備品および施設管理
- 2) 大学行事に係る準備および資料作成 等
- 3) 予算の管理
- 4) 物品購入や出張などの手続き
- 5) 会議への参加および議事録の作成
- 6) 非常勤講師の対応
- 7) 医学部移転に関する廃棄手続きおよび業者対応 等
- 8) 研究室・講義等に係る物品および備品の発注や業者対応 等

3. 業務実績 総合技術部

食とヘルスケアグループで担当した業務依頼および研修等について報告する。食とヘルスケアグループでは、4 件の業務依頼を受け、総合技術部内で食育 SAT を活用した研修を実施した。また体験型のイベントでは準備から講師役まで幅広く携わり、次世代の興味や関心を育てることに貢献した。



第 20 回千原農場まつり
ワークショップ
「シモン芋もちクッキング」



「琉大ピザ」開発
メニュー考案・試作会



食育 SAT システムを使用した
「新しい体験型食事診断」

年度	実施日	場所	内容	参加者
2023 年度	12 月 16 日	(琉) 千原フィールド	(業務依頼) 第 20 回千原フィールド ワークショップ「シモン芋もちクッキン グ」体験会	上原、大江、仲村、 町田
	1 月 19 日	(琉) 農学部	(業務依頼)「琉大ピザ」開発 メニュー考案・試作会	大江、町田
2024 年度	4 月～現在 (月 1 回実施)	(琉) 第二体育館	(業務依頼) 琉球大学陸上部への 栄養サポート講座	町田
	4 月 9 日	(琉) 農学部別棟 多目的 1 室	(業務依頼) 第 4 回 商品開発ワーク ショップ「シモン芋のお菓子試食会」	大江、町田、山里
	7 月 14 日	(琉) 亜熱帯島嶼科学 拠点研究棟	食育 SAT システム研修	赤嶺、上原、大江、 町田、山里、山田
	8 月 2 日	(琉) 50 周年記念会館	親子で遊ぼう！夏休み子どもサイエ ンス 2024	赤嶺、大江、町田、 山里、山田
	8 月 10 日	国頭村	(出前講座) サイエンスクッキング	大江、町田、山里
	11 月 9 日	(琉) 亜熱帯島嶼科学 拠点研究棟	(iTec フェスタ) 食育 SAT システムを 使用した「新しい体験型食事診断」	赤嶺、大江、仲村、 町田、山里、山田
	3 月 31 日	(琉) 農学部	(業務依頼) 高校生研究活動体験 「コーヒーの香気成分分析」	大江

(琉) は琉球大学の略

生物・生体技術グループ

1. 業務内容

生物・生体技術グループは、所属職員全員が医学部に派遣されている。それぞれ、講座・学科支援室・共通利用施設にて、教育・研究・運営支援を行っているため、業務は多岐に渡る。

2. 業務実績 派遣先(医学部)

2.1 医学部の西普天間移転に関する業務

設計、予算、備品調達、仕様書作成、物品管理・廃棄

2.2 保健学科技術支援室

教育支援

学生実習・演習、実習補助、学生指導、講義準備・片付け、非常勤講師に係る事務、授業評価実施補助、学生実習用機器管理・保守、期末試験監督

研究支援

共通実験室機器保守・消耗品管理、試薬等発注、実験器具管理、共通機器トラブル対応

運営支援

研究室予算管理・物品購入手続き・出張手続き、学科共通予算の管理、学科事務の支援、学科長業務補助、各種行事対応

研究科業務支援

特論科目事務支援(受講者名簿作成、招聘事務手続き等、研究科予算管理、研究科長業務補助)

2.3 RI 実験施設

廃止措置

廃止措置計画書作成および原子力規制委員会へ提出、管理区域内汚染検査、RI 汚染廃棄物廃棄処理、密封線源譲渡、原子力規制委員会へ廃止措置完了報告

2.4 顎顔面口腔機能再建学講座

講座事務

麻薬施用者免許・診療従事者・学生病院実習受入手続き、各種病院関連報告書作成、職員採用・共済関連・各種手当/証明書等手続き、兼業管理、学外者招聘・謝金手続き、健康診断・ワクチン接種確認、予算管理、講座・病院物品購入手続き、講座・病院資産管理、医療機器保守管理手続き、客員研究員手続き、科研費関連、倫理審査手続き補助

教育支援

非常勤講師手続き、講義準備、試験監督補助

研究支援

マウスからの DNA 抽出、電気泳動、シーケンスの為の試料調整、試薬調整

その他業務

歯科検診調整(学校、自治体、企業)、レセプト関連問合せ対応、電子カルテ対応、各種行事対応

2.5 人体解剖学講座

検体業務

献体の引取・防腐処置・保管管理、献体団体でいご会役員出張時の随行・献体実務担当者会議、研

修会への参加、でいご会総会の運営、献体火葬式の運営、献体慰霊祭での御遺族対応

解剖実習補助業務

実習準備、献体の管理、学生の実習指導

管理業務

解剖実習室や遺体処置室等の管理)、研究支援(共同研究支援(CT 撮影、DNA 抽出)

研究室保守業務

解析用 PC の保守管理、実験室の保守管理

研究活動

CT 画像解析を用いた研究(魚類、ヒト))

2.6 動物実験施設

実験動物の飼育管理

給餌、給水、ケージ交換、死体処理

飼育器材の維持管理

飼育ケージ等の洗浄および滅菌作業

施設内の衛生管理

飼育室、実験室、共用エリアの清掃消毒作業

運営に関する事務管理

予算の管理と執行、非常勤職員の人事管理

各種設備の保守管理

飼育設備、洗浄設備、滅菌装置、

空調設備等の点検

研究支援業務

生殖工学技術を用いた遺伝子改変マウス胚および精子の保存)



2.7 実験実習機器センター

共通機器・部屋の利用管理

電話対応、メール対応等

機器のトラブル対応

教員・利用者への連絡、メーカー・代理店への

問合せ

事務業務

小型機器・試薬・大型プリンタなど消耗品の

発注や納品

研究支援

DNA 分析実験・塩基配列のデータ解析について受託解析サービス提供



3. 業務実績 総合技術部

iTec フェスタにて「DNA を取り出そう」企画の立案・実施に携わった

研究室運営支援グループ

1. 業務内容

教育学部と医学部(システム生理学講座、公衆衛生学・疫学講座、眼科学講座、細胞病理学講座、女性・生殖医学講座、整形外科学講座、分子解剖学講座、法医学講座、臨床薬理学講座、医学部先端医学研究センター)に派遣され教育・研究・運営支援を行っている。

2. 業務実績 派遣先(教育学部、医学部)

2.1 教育学部

2.1.1 技術教育専修における教育支援

講義および実習における教育支援や、使用する工作機械等の保守管理を行っている。
教育支援講座名:基礎製図、金属加工及び実習Ⅰ、機械総合実習Ⅰ、機械工作実習Ⅰ

2.1.2 管理業務内容

1. 教育学部技術教育棟金属加工室等(102,103,104 室)における工作機械の保守管理
2. 教育学部技術教育棟 214 室における 3D プリンター・レーザー加工機等の保守管理
3. 教育学部技術教育棟精密測定室(105 室)における薬品管理
4. 琉球大学教育学部附属中学校(薬品庫 01-1310)における薬品管理

2.1.3 地域貢献

公開講座「学校で使えるデジタル機器を利用した STEAM 教育・授業づくり実践講座」(2024 年 1 月)を実施スタッフとして行った。

2.1.4 その他の支援

出前講座等における準備、予備実験、教員の研究データの補助等

2.1.5 教育学部における事務支援

1. 各種入試業務
2. オープンキャンパスやイベント等の実施スタッフ
3. 事務共有 NAS サーバーの管理運営
4. 以下の教育学部関連 HP や WEB システムの管理運営
教育学部 HP、教育学部教員専用(学内限定)HP、教職大学院 HP、教職センターHP
おきなわ教員研修高度化フォーラム HP、オンライン研修システム「けん☆チャン」HP
教員免許更新講習 HP(2025 年 3 月閉鎖予定)、
その他教育学部附属小学校 HP 制作に関してのサポート等
5. 契約サーバー、データベースの管理運営
 - ・ さくらサーバーにて ssl 証明書の更新手続き等 契約数 3 件
 - ・ AWS サーバーにてユーザー数の管理更新等
6. 学生・教員・教育学部関係者用の GoogleWorkspace アカウント情報の管理運営
 - ・ 2024 年度新規アカウント発行数 160 件
 - ・ 2024 年度更新アカウント数 約 1300 件
7. 文部科学省委託事業「おきなわ教員研修高度化フォーラム」にて教員研修開発事業部のスタッフ

として各種業務を行う

- ・ 問い合わせ等の対応、成果報告会の開催
 - ・ 教員研修用動画の取りまとめや WEB システムに反映 動画数 90 件
8. 教育学部教育研究支援室にてアドバイザースタッフ派遣事業にて申込受付等の対応
- ・ 2023 年度派遣件数 409 件
 - ・ 2024 年度派遣件数 405 件(2025 年 2 月 10 日時点)
9. 琉球大学教育学部 地域連携部会での支援業務
- ・ 教育学部と那覇市立教育研究所の連携協定(通称 NARAE ネット)の委員として推進会議に参加
 - ・ 那覇市立教育研究所成果報告会へ参加の教育学部生の取りまとめ等
 - ・ 地域連携部会成果報告交流会の開催

2.2 医学部

- ・ 上原地区キャンパスから西普天間キャンパスへの移転引越し業務。
- ・ 講座運営
派遣先講座での事務作業(秘書業務、予算管理、物品購入、出張手続き、部屋の管理)。
- ・ 教育支援
講義のサポート(資料印刷、出欠確認補助、授業評価補助、試験・採点補助、非常勤講師に関する手続き)、学生実習(実習室の管理、実習室スケジュール管理、実習補助、実習機器等の管理)
- ・ 研究支援
研究のサポート、研究室の管理、試薬・危険物の管理、研究費管理、研究関連物品購入、大学院生の研究補助

○研究・技術紹介

各派遣先講座での研究・技術紹介を一部紹介。

- ・ 大学院生の研究補助として、実験動物マウスの組織標本作成、実験区と対照区の組織の比較をするために組織をパラフィン包埋、薄切、HE 染色。
- ・ 病理診断の補助としてリンパ腫のクローナリティ解析を行っている。クローナリティ解析とは、腫瘍が単一のクローンから発生しているか、多クローン性であるかを解析する技術で、診断や治療方針の決定に役立つ。具体的には、腫瘍組織を固定しパラフィン包埋したブロックを薄切し、腫瘍組織からゲノム DNA を抽出し T 細胞受容体遺伝子および免疫グロブリン遺伝子を PCR で増幅する。PCR 産物の長さを解析しクローナリティを判別する。

3. 業務実績 総合技術部

秋田大学総合技術部テクノフェスタ参加(2024 年 11 月 16 日)

琉球大学総合技術部発足後初めて開催した琉大 iTec フェスタや公開講座、出前講座の今後の発展を目的に秋田大学総合技術部が主催するテクノフェスタに参加し、視察後、琉大総合技術部報告会にて情報共有を行った。

機器分析グループ

1. 業務内容

機器分析グループでは、学内共用機器・設備の運用、寒剤の製造・供給及びその装置の管理、RI 施設の管理、学科運営支援、並びに関連委員会等の業務を行っている。

2. 業務実績 派遣先

2.1 分析機器

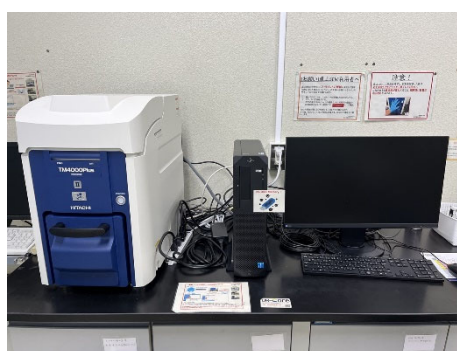
主に研究基盤統括センターの学内共用機器・設備の運用(操作説明、メンテナンス、依頼分析等)、及び各種技術支援を通して、研究教育活動の推進に取り組んでいる。また、他学部の全学共用機器の管理運営にも携わっている。

担当者	分析機器担当台数 ※括弧は副担当	主な分析機器
儀間	7(8)	NMR、LC-MS/MS、HPLC
泉水	20(6)	SEM-EDS、蛍光 X 線、ICP
古謝*	8	FT-IR、顕微ラマン、単結晶 X 線
玉城*	5(4)	元素分析装置、水質分析計

* は環境安全管理グループからのサブメンバー



高分解能 LC-MS/MS(Orbitrap)



卓上型 SEM-EDS(TM4000PlusII)

2.2 寒剤供給

研究基盤統括センター極低温施設にて液体窒素(-196℃)と液体ヘリウム(-269℃)を製造し、学内の研究教育用に供給している。液化設備の運転や保守などハード面、利用者対応や施設運営などソフト面の業務がある。高圧ガス保安法に規制され、利用者への安全指導も欠かせない。学外とも連携し、ヘリウム受託液化(持ち込まれるヘリウムガスを液体ヘリウムにして返すリサイクル)も行っている。また小中高校理科教員等に対しても液体窒素の活用で協力している。

2.3 RI 管理

研究基盤統括センターRI 施設の維持管理として、放射性同位元素の在庫管理、利用者向け教育訓練、定期測定、施設点検等を行っている。

2.4 学科運営支援

理学部物質地球科学科物理系の学科運営に係る支援を行っている。

教育支援

物理系では共通教育から物理系 3 年次までの実験を開講しており下記の学生実験の指導及び運営支援を行っている。

1. 物理学実験(共通教育)
2. 物理実験II(物理系 2 年次後期)
3. 物理実験III(物理系 2 年次前期)
4. 物理学基礎実験(理学部教職科目)

研究支援

- ・物理系共用機器(XRD、ラウエカメラ)の管理・保守
- ・実験室や講義室ならび居室の保守管理、修繕、工事対応

事務関係支援

物理系の事務ならびに学部・学科行事に関する支援を行っている。

- ・物理系事務室統括 ・系会議への参加及び議事作成
- ・予算管理 ・非常勤講師及び TA 対応
- ・大学入試(共通テスト、推薦入試、一般入試)に係る支援
- ・オープンキャンパス・理学部体験ツアーに係る支援

2.5 その他

- ・研究基盤統括センターが有するトラックの管理、貸出業務(宗本)

3. 業務実績 総合技術部

- ・重要文化財の電子顕微鏡観察支援(泉水)
- ・職員課からの依頼によるトラックのテールゲートリフター特別教育の講師(宗本)
- ・トラック利用者の依頼によるテールゲートリフター荷役作業(宗本)
- ・西普天間キャンパス管理課からの依頼による液体窒素供給用容器の取扱指導(宗本)
- ・特別授業:沖縄の水問題について考える@南星中学校(泉水)
- ・理学部 1 年生の授業「基礎ゼミ」で液体窒素実験教室(物理系、地学系、化学系 計 7 回)(宗本)
- ・医学部保健学科講義「生化学検査学」非常勤講師(2 コマ)(儀間)
- ・琉大 iTec フェスタにおいて、2 テーマを企画・実施
 1. 顕微鏡でみるミクロな世界(儀間、泉水)
 2. 超低温実験体験(宗本、仲村)
- ・蛍光 X 線分析装置講習会の講師(泉水)
- ・RI 教育訓練の講師(儀間)

環境安全管理グループ

1. 業務内容

化学物質管理支援、実験系廃液及び廃棄物回収、実験系排水検査、作業環境測定等、法令遵守に関する管理技術を提供する。

2024 年度はグループの目標として、リスクアセスメントやリスク低減対策に関する技術・知識の習得・向上を掲げ、主な業務として移転事業・研究棟改修工事における環境・安全衛生対策の相談・支援の対応を行った。

2. 業務実績 派遣先

2.1 化学物質管理

研究基盤統括センターでは化学物質管理支援の一環で不要な実験試薬の回収処理の仲介を行っている。2024 年度は病院・医学部キャンパスの移転のため大量の試薬や廃液の回収・処理依頼があった。回収した試薬は 2025 年 3 月末時点で合計 4800 本弱、そのうち約 3900 本は病院・医学部キャンパス(上原キャンパス)からの回収分だった。

今年度は排出元が上原キャンパスに集中したことから、医学 RI 実験施設の協力を得て臨時の回収拠点を設置した。また上原キャンパス事務部と連携し 3 月末にも追加回収を受け付けるなど、危険・有害化学物質の確実な処分を後押しした。

回収品のうち 4 割弱(約 1750 本)は毒劇物や消防法危険物、PRTR 指定化学物質など、人の健康や安全、環境等へのリスクのある化学物質だった。一連の取り組みを通じて、キャンパス移転における化学物質の事故のリスクの低減に寄与できたと考えている。

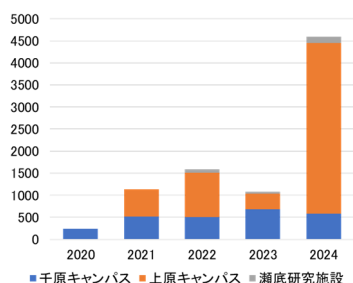


図1 不要試薬回収本数の推移
(研究基盤統括センター回収分)

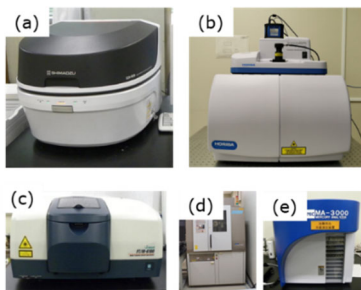


図2 内容物不明試薬の調査で活躍した分析機器
(a) 蛍光 X 線分析装置(EDX) (b) 顕微ラマン
(c) FT-IR 分光計 (d) XRD (e) 金アマルガム捕集
加熱気化冷原子吸光光度計(水銀)

また処理費用圧縮のため、併せてこれらの対策に取り組んだ。

- ・ 引き渡し日・場所を一カ所に集約
- ・ リユースの見込みの高い汎用試薬は倉庫に当面保管し、譲り先を探す
- ・ 安全データシートなどから成分を特定し、分別を徹底
- ・ リスクアセスメントを踏まえた内容物不明試薬の成分特定

2.2 廃液回収業務、排水水質管理支援

2024 年度は排水水質検査を圧送ポンプ場 24 回、千原 10 回、上原 3 回、瀬底 2 回、西表 1 回、実施した。また、学部廃液の回収を医学部 6 回、理学部 5 回、工学部 5 回、教育学部 5 回、農学部 5 回、瀬底研究施設 2 回、実施した。

2.3 安全衛生管理、労務管理

職場巡視(上原キャンパス)を以下の通り実施した。

日付	場所	担当者
2024 年 5 月 28 日(火)	保健学科棟 1-4 階	田邊
2024 年 6 月 25 日(火)	第二基礎研究棟 基礎研究棟 8-9F	田邊 田中
2024 年 7 月 23 日(火)	基礎研究棟 6-7F	田邊 田中
2024 年 9 月 24 日(火)	基礎研究棟 5-1F	田邊 田中
2024 年 10 月 22 日(火)	臨床研究棟 6-9F	田邊 田中
2024 年 11 月 26 日(火)	臨床研究棟 1-5F	田邊 田中
2024 年 12 月 24 日(火)	解剖法医棟 動物実験施設	田邊 田中

3. 業務実績 総合技術部

- ・琉大 iTec フェスタ参加

- ・業務グループ会議の開催

2023 年 10 月 23 日 議題:グループについて、近況報告など

2024 年 5 月 10 日 議題:グループの年度計画、毒劇物監査など

2024 年 7 月 12 日 議題:iTec フェスタ、安衛法対応など

2024 年 10 月 24 日 議題:スキルカタログ、キャンパス移転関係の話題など

- ・フィールド技術グループ向けの化学物質管理研修実施(2024 年 6 月 19 日)

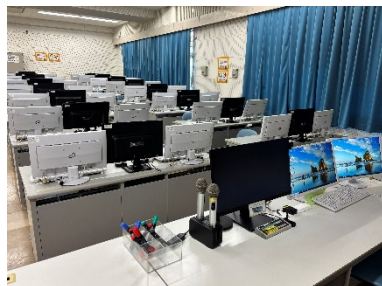
人文社会グループ

1. 業績内容

人文社会グループは、派遣先のグローバル教育支援機構・外国語ユニット(共通教育棟)に拠点を置き、語学ラボ室や一般講義室における語学系を中心とした人文社会科目への対応を行っている(夜間講義も含む)。また、全学向けに英語 e ラーニングシステム「アルクネットアカデミーネクスト」の提供、対象学部へ「デジタル教科書」の貸出等も行っている。



語学ラボ室(LL 型)



語学ラボ室(PC 室型)



一般講義室

2. 業務実績 派遣先(グローバル教育支援機構・外国語ユニット)

2.1 講義対応

2023～2024 年度における対応講義数は下記の通りであった。

	2023 年度 後期	2024 年度 前期	2024 年度 後期
語学ラボ室(3 号館)	39	41	43
語学ラボ室(4 号館)	39	49	37
一般講義室(3 号館)	139	200	126

2.2 英語 e ラーニングシステム「アルクネットアカデミーネクスト」対応

2023 年度 10 月～2024 年度 12 月における英語 e ラーニングシステム運用にかかる対応/処置件数は下記であった。

	件数	備考
ユーザ登録(PW 再発行)	342	
講義登録	14	
サーバ更新	1	収容コンテンツ「TOEIC コース」の利用期限の延長処理 (延長期間:2024 年 10 月～2026 年 3 月)
SSL 証明書更新	1	次回は 2025 年 6 月頃を予定

2.3 デジタル教科書貸出

2024 年度における国際地域創造学部および教育学部の「英語科教育法」受講生へのデジタル教科書（タブレット PC）の対応件数は下記であった。（※2023 年度は導入前につき未実施）

2024 年度 前期	2024 年度 後期
45	12

The screenshot shows a Google Form titled "[R6後] 教材予約フォーム(英語科教育法A)". The form contains instructions in Japanese, including a note about the form being for the English Education A course and a request to fill it out by a certain date. There are radio button options for selecting the type of digital textbook (e.g., "英語 (英A-305) の予約", "デジタル教科書 (ノートPC) の予約", "英語 (英A-305)、デジタル教科書 (ノートPC) 同時予約").

※貸出予約は Google フォームを用いている

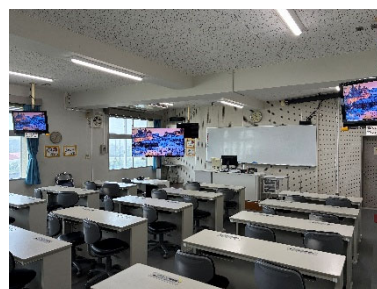
2.4 改修、補修等

2023 年度 10 月～2024 年度 3 月において、以下の改修等を行った。

日付/時期	内容	場所
2023 年 8 月	天吊り TV デジタル化 (HDMI 接続)	共通教育棟 3 号館、4 号館 語学ラボ室 (TV 計 9 台)
2024 年 2 月	語学準備室レイアウト変更	共 3-401 室
2024 年 10 月	大型液晶 TV 設置	共 4-301 室
2025 年 2 月	大型液晶 TV 設置	共 3-403 室、共 3-405 室



共 4-301 室



共 3-403 室

2.5 出張・研修・会議

2024 年度にセンター教職員が実施した外部への出張・研修・会議は下記の通り。

期間	出張先	出張内容、研修・会議名等
2024 年 5 月 16 日	OIST	今後の協力についてキックオフミーティング

2.6 その他

派遣先のグローバル教育支援機構・外国語ユニットにおいて、各種の事務手続きや予算管理（教育基盤経費）、外国人教員の予算執行や旅費申請、科研費報告の補助等を広範囲に行っている。

企画戦略グループ

1. 業務内容

総合技術部の将来計画立案、予算計画策定、業務改善、人事評価、技術企画に関することなどを担当する。

2. 業務実績

2.1 予算計画策定

各グループが作成した年度目標と予算案に基づき、優先順位を決めて予算計画を策定した。

2.2 人事評価制度の策定

総合技術部への組織化に伴い、評価制度を確立するため、以下のことを実施した。

【業績評価調書の策定】

技術職員は、評価領域(教育、研究、地域貢献など)ごとに自身の年度当初目標を立て、年度末に自己評価を記入し提出した。

【意向調書の策定】

各技術職員は、業務内容や業務量等の把握、資格取得状況、業務に対する考え方や将来像などを記入し提出した。

【個別面談の実施スケジュール策定】

業績評価調書と意向調書を基に行う個別面談の実施スケジュールを策定した(表1)。年度初めと年度末の計2回行い、各技術職員の年度目標や評価等について話し合うこととした。これらの結果に基づき、マネージャーによる各技術職員の評価を行った。

2.3 管理運営グループの業務内容再検討

各管理運営グループが効率的に機能するよう業務内容を洗い出し、グループ再編(統廃合など)の検討を進めた。

2024 年度・2025 年度 評価スケジュール

令和6年度													
内容	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業績評価調書	説明会	→											
	提出	→											
意向調書	提出			→									
面談	中間						←	→					
	期末											←	→
令和7年度													
内容	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業績評価調書	提出	→											
意向調書	提出			→									
面談	期初	←	→										
	期末											←	→

総務グループ

1. 業務内容

総務グループの業務は、これまで各学部にて行われていた出張や振替休暇等の事務手続きの総合技術部内でのとりまとめや、手順のマニュアル化、およびその他の事務手続きや作業の補助を行うことである。

2. 業務実績

総合技術部内で事務手続き等の一元化を図るため、出張や振替休暇等の手続き(手順や流れ)についてマニュアルを作成し、周知を行った。2023年10月より就業時間記録システム導入に伴い、これら手続きが同システムで行うこととなり、その役目を終えた。その他、令和6年12月からは業務負荷の大きい広報グループを5名のメンバーが期間限定で支援した。

勤務時刻表（日曜出勤の出勤例）

休日の振替突発病

前日通信 総合管理課 緊急連絡グループ

※またる業務グループを記

対象期間を記入
↓（日曜物まりなので休もう一週間）

↓あれば記載

日	月	日	曜	出勤開始時間	出勤終了時間	休日	振替休日	出勤時間	休日	振替休日	出勤時間
10	10	26	日	8:30	17:45	10/27	10/28	10/29	10/30	11/1	11/2
A	11	26	日	8:30	17:45	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2
B	11	26	日	8:30	17:45	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2
C	11	26	日	8:30	17:45	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2

対象者を記入
同じ業務において対象者が複数いる場合は、まとめて記入

対象日および
出勤時間（予定）を記入

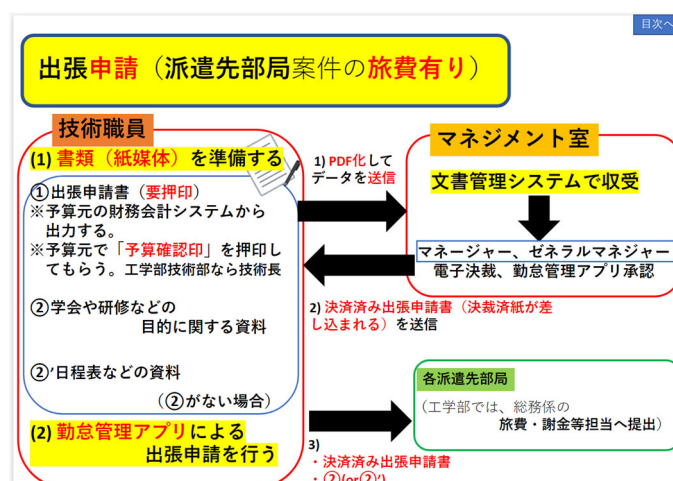
全休憩時間を記載

↑
出勤する理由を記載

↓
振替日を記載

←押印不要

休日出勤の手続きに関するマニュアルの一部 (2024 年 10 月まで運用)



出張申請の手続きに関するマニュアルの一部 (2024 年度 10 月まで運用)

RX グループ

1. 業務内容

総合技術部内の業務グループの一つである RX グループは、琉球大学 RX(琉大版 DX)推進のために技術職員のスキルを活かして貢献する。RX グループは情報系のスキルを持つ技術職員や、現時点でスキルは持ち合わせていないが DX に興味がある技術職員で構成されている。2023～2024 年度に RX グループで行った業務実績を、次項に示す。

2. 業務実績

2.1 Power Platform の勉強会

Power Platform は、Microsoft 社が提供するクラウドサービスで、アプリ作成、プロセスの自動化、データ収集・解析等をローコードで実現できる製品群で、プログラミング未経験者でも開発等を行うことができる。RX グループでは、Power Platform の中で、定型業務の自動化を目指して、「Power Automate」をある程度使いこなせるようになることを目標に、月 1 回のペースで勉強会を実施した。具体的には、Forms を利用した簡易ワークフローの作成や、Excel ファイルを SharePoint リストに転記するフローの作成などに取り組んだ。これら自動化技術を習得することで、日常業務のデジタル化・効率化を図る。



RX グループ勉強会(農学部フィールドセンターの牛舎にて)

2.2 DX スキル強化を目指したオンライン講習のカリキュラム策定・実施

総合技術部全員の DX スキルの底上げを行うため、研修教育グループと協同で外部のオンライン講習(Schoo)を選定・実施した。2024 年度は、DX スキルの底上げが目的で科目を選定し、総合技術部全員に受講させた。今後もオンライン講習などを活用して、DX スキル等の更なる向上及び業務での活用を目指す。

2.3 業務システムの構築と運用

勤怠管理システム(休暇申請・承認・集計)、時間外業務申請システム、業務依頼窓口システムを構築し、運用した。

広報グループ

1. 業務内容

広報グループでは、2023 年 10 月に総合技術部が発足して以降、総合技術部独自のホームページ(HP)を作成及び運営し、総合技術部の活動について大学内外へ情報を発信している。今年度については、主に総合技術部が主催したイベント『琉大 iTec フェスタ』に関するお知らせ、技術職員の採用情報や仕事紹介などを掲載した。その他、他グループと連携し、総合技術部オリジナルパンフレットの作成を行った。

2. 業務実績

2.1 総合技術部 HP の作成、管理運営

- ・総合技術部について(紹介)
- ・業務依頼フォームの作成、公開
- ・技術分野別スキルカタログの公開
- ・出前講座の紹介
- ・記事掲載 計 22 件
(内訳:お知らせ 16 件、採用情報 5 件、仕事紹介 1 件)
- ※2023 年 10 月～2024 年 3 月時点



2.2 刊行物掲載

- ・2024 年度琉球大学概要
- ・琉球大学統合報告書 2024

2.3 その他

- ・琉球大学公式 HP 及び SNS への記事掲載
- ・琉大 100 人論文への投稿
- ・総合技術部パンフレット

琉球大学総合技術部パンフレット

3. 今後の活動方針

広報グループでは、今後も HP を更新し総合技術部の活動について大学内外へ積極的に情報発信する予定である。また、多くの人々に当組織を認知してもらうため、まずは総合技術部のシンボルとなるオリジナルのロゴやパンフレットの完成を目標に活動を進めていきたいと考えている。その他、広報グループメンバーの広報スキル向上を目指し、HP 更新作業についてのグループ内研修も検討している。

地域貢献グループ

1. 業務内容

地域貢献グループにおける 2024 年度グループ目標は、①「各部署およびグループの地域貢献活動を支援する」、②「異分野技術融合型の公開講座を企画・検討する」を掲げて活動した。その他の活動として、依頼業務(出前講座)のフローチャートの作成や琉大 iTec フェスタの開催を支援した。

2. 業務実績

2.1 各部署およびグループの地域貢献活動を支援

令和 2024 年度における出前・公開講座は、16 件実施し、234 名を受け入れた。従来は工学系の技術職員で出前・公開講座を実施していた内容も、他グループに参加者を募ることで特定の職員の負担を軽減するなどの支援をした。

2.2 異分野技術融合型の公開講座を企画・検討

2024 年 8 月 10 日に辺士名小学校において「科学を学ぼう！サイエンスクッキング」を新規で企画し、実施した。食とヘルスケアグループを中心に、フィールド技術グループ、情報グループの技術職員でレシピを検討し、料理を通じてアントシアニン色素の変化や凝固点降下の実験を実施した。また、琉大 iTec フェスタで実施した講座を基に、食とヘルスケアグループ、生物・生体技術グループ、フィールド技術グループ、研究室運営支援グループ、情報グループで「わくわく実験ラボ-DNA と不思議なプラスチック」を企画し、2025 年度の公開講座で実施予定(申請中)である。



サイエンスクッキング

2.3 その他

総合技術部で出前講座を受入する際のフローチャートを作成した。グループ内や地域連携推進課とも検討を重ね、公式 HP に掲載している。

2024 年 11 月 9 日に総合技術部として初めてとなる「琉大 iTec フェスタ」を亜熱帯島嶼科学拠点研究棟とその周辺施設で開催した。内容は 11 講座を企画し、当日は総勢 49 名の職員が対応し、小学生の親子を対象に 73 組(事前予約)の参加者があった。参加者からは、「また参加したい」との声が多くとても好評であった。



フローチャート

研修教育グループ

1. 業務内容

研修教育グループでは、総合技術部における技術職員の研修および教育に係る取り組みを運営・実施している。主に、月に1回開催している琉大 iTec 報告会では、総合技術部の全技術職員向けの定例会として運営している。その他、技術職員のスキルアップに係る研修・教育を企画・実施している。

2. 業務実績

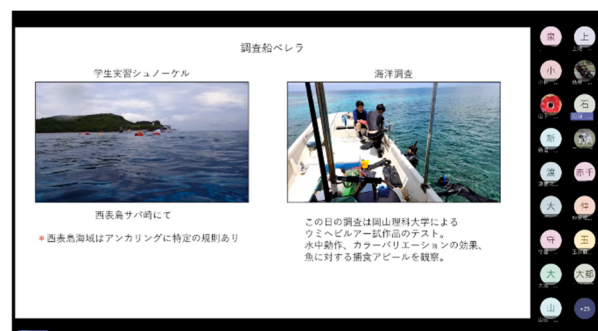
- ・2024 年度新採用職員研修(2024 年 4 月実施)において、情報セキュリティ研修と化学物質管理に関する研修の担当
- ・2024 年度新採用職員農業技術研修(2025 年 3 月実施)
- ・琉大 iTec 報告会の定期開催の運営・実施(毎月第 3 木曜に開催)
- ・総合技術部技術職員向けに RX グループと共同にて Schoo(オンライン動画コンテンツ)を用いた「RX 研修(必修)」を実施(2024 年 10 月開始)
- ・外部機関との技術交流の調整及び実施(Atos 株式会社、ものづくりネットワーク、沖縄県金型技術センター、OIST)※継続中



2024 年度新採用職員研修の様子



2024 年度農業技術研修の様子



琉大 iTec 報告会の様子

業務依頼グループ

1. 業務内容

各部局への職員派遣依頼，個別の業務依頼に関すること，並びに異分野融合プロジェクトなどの技術相談対応など。

2. 業務実績

2.1 業務依頼受付から業務完了までの仕組みづくり

依頼フォームを作成し、ホームページで公開した。

The image shows two parts of the business request form. On the left is the homepage version, which includes a navigation bar with links like 'ホーム', '総合技術部について', '業務依頼', '技術分野別スキルカタログ', '出前講座', and '連絡先'. The main content area is titled '業務依頼' and contains a message: '〇〇を分析したい。〇〇を作りたい。〇〇がしたいけどどうすれば出来るのかわからない。そんなお困り、技術職員がお助けします。' Below this is a 2x2 grid of images showing various scientific and technical activities. At the bottom, there are links for 'スキルカタログ' and two buttons: '【学内】業務依頼・技術相談フォーム' and '【学外】業務依頼・技術相談フォーム'. On the right is the actual form, which has four sections: 1. '依頼者 所属部局名 *' with a text input field; 2. '依頼・相談 *' with radio buttons for '業務依頼' and '技術相談'; 3. '連絡先 *' with a text input field; and 4. '業務概要 *' with a text input field.

2.2 各種業依頼内容に基づく職員の割り当て業務

依頼内容	件数
講義・実習支援	15
出前講座、技術イベント	12
技術提供 (フィールド、食とヘルスケア、分析)	10
安全衛生関連	3
各種委員会委員等	17
合計	57

職員実績

(2023 年 10 月から 2025 年 3 月の期間)

投稿論文(筆頭・共著)

職員が関わった投稿論文の実績は以下のとおりで、連名の場合には職員氏名を罫線付きで示す。

1. 大山翔, 西村伊吹, 廣瀬孝三郎, 松原仁: 栗国凝灰岩の微生物風化に関する実験研究, 第 16 回地盤改良シンポジウム論文集, pp. 645-650, 2024.
2. 皿山佳英, 廣瀬孝三郎, 日野良太, 新里尚也, 松原仁: 島尻層群泥岩におけるバガスのバイオレメディエーション効果, 第 16 回地盤改良シンポジウム論文集, pp. 471-476, 2024.
3. 皿山佳英, 藤井雄太, 日野良太, 大西健司, 西川直仁, 緒方浩基, 廣瀬孝三郎, 新里尚也, 松原仁: バガス添加による廃油由来アルカン分解菌の活性化, 材料, 73(1):58-63, 2024. DOI: 10.2472/jsms.73.58.
4. 茅野太紀, 新垣美香, 鈴木詩織, 仲里吏梨花, 高安美羽, 宮城妃春, 具志堅れいあ, 田里美空: 「高等学校教育における『総合的な探求の時間』の教育支援」, 琉球大学農学部学術報告, 2023.12
5. 波平知之, 伊藤早苗, 屋良朝宣, 茅野太紀, 山田恭子, 新垣美香, 浅野陽樹, 與那篤史, 千住智信, 長尾慶和: 「GAP の実践効果と『総合知』の創出に向けた農業教育技術の展開」, 琉球大学農学部学術報告, 2023.12
6. 波平知之, 竹信晴人, 屋良朝宣, 茅野太紀, 村田正将, 鈴木詩織: 「肥育期間中の放飼管理が肥育豚の日中行動に及ぼす影響」, 琉球大学農学部学術報告, 2023.12
7. 茅野太紀, 波平知之, 屋良朝宣: 「牛ふんの高温好気性発行堆肥について」, 沖縄畜産研究会, 2024.6
8. 青柳悠也, 新里良章, 茅野太紀, 鹿内健志: 「サトウキビ栽培における小型ディスクカルチの性能調査」, 九州農業食料工学会, 2024.8
9. 玉城政信, 屋良朝宣: 「沖縄県に畜産共進会における黒毛和種去勢肥育牛の枝肉成績」, 沖縄畜産, 2024.10
10. Hideyuki Yamashiro, Shohei Kadena, Mori Jinza, and Shigeo Nakamura: 「Unusual shore stranding of krill on the coral reef beach, Okinawa, Japan」, Galaxea JCRS, 2025
11. 泉水仁, 中川鉄水, 福本晃造 他: 「沖縄をモデルケースにした高温多湿地域における除湿水の水質・水量調査及びその有効活用」, 水環境学会誌, 2024.1
12. 浦崎真吾, 下里哲弘, 淵脇秀晃, 玉城喜章: 「電気化学実験を用いて減肉させた高力ボルトの軸力低下特性に関する研究」, 土木学会西部支部沖縄会, 2025.1
13. 真田大輝, 下里哲弘, 淵脇秀晃: 「改良型ノズルホルダーを用いた CS 工法の成膜性評価」, 土木学会西部支部沖縄会, 2025.1
14. 安里拓馬, 下里哲弘, 淵脇秀晃: 「SEM とラマン分光法を用いた表面処理剤を施した耐候性鋼材のさび分析」, 土木学会西部支部沖縄会, 2025.1
15. 矢ヶ部菜月, 淵脇秀晃, 下里哲弘: 「ボルトキャップにおける接着剤の耐久性の検討」, 土木学会西部支部沖縄会, 2025.1
16. 三浦烈, 波平康太, 山田義智, 東舟道裕亮, 平野修也, 清水寛太: 複数の機械学習器による高流動コンクリートの流動性予測の検討, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.281-282, 2024.7
17. 波平康太, 三浦烈, 山田義智, 東舟道裕亮, 平野修也, 清水寛太: 機械学習および応答曲面法を用いた高流動コンクリートの流動性予測, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.283-284, 2024.7
18. 清水寛太, 秋山五郎, 平野修也, 山田義智, 東舟道裕亮, 森田浩史, 高淵稔貴: ビンガム流体標準物質のレ

- オロジー特性の経時変化に関する実験的研究(その 1. 実験概要およびペーストの試験結果に基づく考察), 日本建築学会学術講演梗概集, pp.385-386, 2024.7
19. 秋山五郎, 清水寛太, 平野修也, 山田義智, 東舟道裕亮, 森田浩史, 高淵稔貴:ビンガム流体標準物質のレオロジー特性の経時変化に関する実験的研究(その 2. モルタルの試験結果に基づく考察), 日本建築学会学術講演梗概集, pp.387-388, 2024.7
 20. 清水寛太, 東舟道裕亮, 山田義智, 森田浩史:MPS 法によるビンガム流体標準物質のレオロジー定数の認証値に関する検証, コンクリート工学年次論文集, Vol.46, No.1, pp.907-912. 2024
 21. Viqqi Kurnianda, Hao-Chun Hu, Ping-Jyun Sung, Yasuhiro Hayashi, Kanami Mori-Yasumoto, Ayumi Suetake, Hikari Nakayama, Mina Yasumoto-Hirose, Yuna Tsutsumi, Genta Koja, Yu-Chi Tsai, Takahiro Jomori, Junichi Tanaka :「Two isolatedene-type sesquiterpenoids from a soft coral *Heteroxenia* sp.」 *Tetrahedron Letters* *Tetrahedron Letters*, 2024, Volume 151, 155323, <https://doi.org/10.1016/j.tetlet.2024.155323>
 22. Fumi Yagisawa, Takayuki Fujiwara, Shota Yamashita, Shunsuke Hirooka, Kei Tamashiro, Jin Izumi, Yu Kanesaki, Ryo Onuma, Osami Misumi, Soichi Nakamura, Hirofumi Yoshikawa, Haruko Kuroiwa, Tsuneyoshi Kuroiwa, Shin-ya Miyagishima:「A fusion protein of polyphosphate kinase 1 (PPK1) and a Nudix hydrolase is involved in inorganic polyphosphate accumulation in the unicellular red alga *Cyanidioschyzon merolae*」*Plant Molecular Biology*, 12.2024

投稿論文(謝辞)

職員への謝辞が記述された論文は以下の通りで, 職員氏名は末尾に記述している。

1. Reduced gene expression of KCC2 accelerates axonal regeneration and reduces motor dysfunctions after tibial nerve severance and suturing, *Neuroscience* 551 (2024) 55-68, Makiko Moriyasu-Kurogi
2. Effects of low-intensity extracorporeal shock wave therapy on lipopolysaccharide cystitis in a rat model of interstitial cystitis/bladder pain syndrome, *International Urology and Nephrology* (2024) 56:77–86, Hitoshi Uehara
3. A fusion protein of polyphosphate kinase 1 (PPK1) and a Nudix hydrolase is involved in inorganic polyphosphate accumulation in the unicellular red alga *Cyanidioschyzon merolae*” *Plant Molecular Biology*, 2024.12, <https://doi.org/10.1007/s11103-024-01539-5>, Shinichi Gima, Hisaya Munemoto, Genta Koja

講演・発表

職員が関わった講演や発表実績は以下の通りで、連名の場合には職員氏名を罫線付きで示す。

1. 名嘉海人:「無線 ACM センシングシステムの実運用環境構築」,九州地区総合技術研究会, 2024 年 2 月
2. 茅野太紀, 新垣美香, 鈴木詩織, 仲里吏梨花, 高安美羽, 宮城妃春, 具志堅れいあ, 田里美空:「沖縄県における農畜連携による循環型農業の今後の展望と課題および教育効果」, 沖縄畜産研究会, 2023.12.21
3. 江藤毅, 屋良朝宣, 波平知之, 伊村嘉美:「畜産農場に飛来する野生鳥類」, 沖縄畜産研究会, 2023.12.21
4. 屋良朝宣:「技術職員の『見える化』琉球大学総合技術部の事例」, 研究基盤 EXPO2024 技術職員コンソーシアム TAMARIBA 企画, 2024.1.26
5. 屋良朝宣:「『組織文化の醸成と変革』『個性と協働の促進』」, 第 7 回大学技術職員組織研究会シンポジウム, 2024.3.14
6. 井村信弥, 新垣美香:「南西諸島漂着軽石の有効活用に向けた養液栽培試験への取り組みについて」, 九州地区総合技術研究会 口頭発表, 2024.3.1
7. 茅野太紀:「超高温好気性発酵堆肥化施設の作業工程と運用コストから見た今後の課題」, 九州地区総合技術研究会, 2024.3.1
8. 屋良朝宣, 村田正将, 鈴木詩織:「琉球大学の牛舎における野生鳥類の侵入・盗食実態調査と飼槽侵入防止対策」, 九州地区総合技術研究会 2024 in 大分大学, 2024.3.1
9. 鈴木詩織, 村田正将:「家畜管理の現場における DX 化 ～ペーパーレス化に向けた第一歩～」, 九州地区総合技術研究会 2024 in 大分大学, 2024.3.1
10. 茅野太紀:「技術職員による他大学と企業が連携したスマート農業教育セミナーの実施」, 実験・実習技術研究会, 2024.3.15
11. 新垣美香:「沖縄県におけるコーヒー栽培技術確立を目指して～(沖縄県に分布する土壌への適性試験)～」2023 年度実験・実習技術研究会, 2024.3.15
12. 山上友誠, 有村登紀, 茅野太紀, 赤嶺光, 諏訪竜一:「沖縄県におけるオオムギ栽培における品種と播種時期との関係」, 日本作物学会, 2024.3.28
13. 有村登紀, 山上友誠, 茅野太紀, 赤嶺光, 諏訪竜一:「沖縄県のコムギ栽培における最適品種と播種時期の選定」, 日本作物学会, 2024.3.28
14. 茅野太紀, 高津里佳, 伊敷七美:「馬力だけでない、トラクタの機能と作業機のマッチング」, 全国大学附属農場協議会九州地域協議会, 2024.8.29
15. 茅野太紀, 新垣美香:「ゼロアグリの導入事例」, スマート農機フォーラム, 2024.9.19
16. 上原一郎, 井村信弥, 神座森:「自然の中の琉球大学施設をご紹介～瀬底・西表・与那～」, おきなわオープン TECH ゼミ, 2024.12.18
17. 吉元義貴, 茅野太紀, 波平知之, 具志尚子:「堆肥と化学肥料における牧草生育調査」, 沖縄畜産研究会, 2024.12.19
18. 屋良朝宣, 儀間真一, 渡慶次高也:「発足後間もない技術職員組織による地域の子どもの向け科学技術啓発イベント(琉大 iTec フェスタ)開催について」, 総合技術研究会 2025 筑波大学, 2025.3.6

19. 鈴木詩織, 村田正将, 名嘉秀和:「ノーコード自動化ツールを用いた子牛の飼養管理におけるデータ活用」,総合技術研究会 2025 筑波大学,2025.3.6
20. 茅野太紀, 波平知之:「農業機械の操作に関する専門技術教育プログラムの実践」, 総合技術研究会 2025 筑波大学,2025.3.7
21. 町田貴和子, 新垣美香, 大江萌那, 山里夏海, 鈴木詩織:「認知度の低い沖縄県産作物等を活用したレシピ開発および広報活動について」, 総合技術研究会 2025 筑波大学(ポスター発表), 筑波大学, 2025 年 3 月 6 日.
22. 泉水仁, 中川鉄水, 福本晃造, 米倉勲:「沖縄型探究活動を支援する除湿水からの簡易純水製造装置の開発」, 第 58 回 日本水環境学会年会, 2024.3
23. 宗本久弥:「液体ヘリウム容器予冷の一例」, 2023 年度 高エネルギー加速器研究機構 技術研究会、2024.3
24. 宗本久弥:研究基盤 EXPO2025「共創の場」シンポジウム:「ヘリウム未来革命:資源循環で築くサステナブルジャパン」, 2025.1(招待講演)
25. 渡慶次高也, 大城諒士, 勢理客勝則:「公開講座「第一種電気工事士技術試験対策講習」実施報告」, 総合技術研究会 2025 筑波大学, 2025 年 3 月 7 日
26. 大城諒士, 渡慶次高也:「第一種電気工事士の免状取得と公開講座立ち上げへの携わり」, 総合技術研究会 2025 筑波大学, 2025 年 3 月 6 日
27. 東舟道裕亮:第 52 回セメント協会論文賞受賞記念講演, 赤坂インターシティコンファレンス, 2024 年 5 月 16 日
28. 古謝源太:「令和6年度 CRIS ユーザー会」, グループディスカッション副座長として参加, 島津福岡ビル, 2024 年 11 月 29 日
29. 宗本久弥:「寒剤運搬容器の台車改良 その 3」, 総合技術研究会 2025 筑波大学, 2025 年 3 月
30. 泉水仁, 中川鉄水, 福本晃造, 米倉勲:「沖縄における除湿水からの簡易純水製造装置の活用と展望～教育機関での事例紹介～」, 日本設計工学会関西支部 2024 年度研究発表講演会, 2025.3
31. 米倉勲, 中川鉄水, 福本晃造, 泉水仁:「空調排水の有効利用を目的とした装置の設計」, 日本設計工学会関西支部 2024 年度研究発表講演会, 2025.3
32. 泉水仁:「琉球大学の全学共用機器に対する成果収集等の取り組み」, 国立国語研究所 IR シンポジウム「研究成果の学術への貢献を使われ方で測るー幅広さと長さに注目してー」, 2025.3(招待講演)

受賞・表彰等

職員が関わった受賞や表彰等の実績は以下の通りで、連名の場合には職員氏名を罫線付きで示す。

1. 東舟道祐亮, 比嘉龍一, 山田義智, 平野修也:第 52 回セメント協会論文賞, 一般社団法人セメント協会, 2024 年 5 月 16 日
2. 屋良朝宣:沖畜研第 3 号 沖縄畜産研究会賞, 沖縄畜産研究会, 2023 年 12 月 21 日
3. 米倉勲, 中川鉄水, 福本晃造, 泉水仁:優秀企業発表賞, 日本設計工学会関西支部 2024 年度研究発表講演会, 2025 年 3 月

特許等

職員が関わった特許実績は以下の通りで、連名の場合には職員氏名を野線付きで示す。

1. 松原仁, 廣瀬孝三郎, 新里尚也, 日野良太, 西川直仁, 緒方浩基, 藤井雄太: バイオレメディエーション促進材、及び、バイオレメディエーション促進方法, 特開 2023-114681, 2023.

TC カレッジ

TC カレッジ受講実績を示す。

1. 我如古将斗: 「設計製作 TM(テクニカルマスター)コース(TM 課程)」, 2023 年 4 月~2025 年 3 月
2. 我如古将斗: 「設計製作コース TM 認定」, 2025 年 3 月 TM 認定
3. 名嘉秀和: 「マネジメントコース TM 認定」, 2024 年 3 月 TM 認定
4. 名嘉秀和: 「マネジメント TC(テクニカルコンダクター)コース(TC 課程)」, 2024 年 4 月~在学中
5. 古謝源太: 「構造解析コース TM 認定」, 2024 年 3 月 TM 認定
6. 古謝源太: 「構造解析 TC(テクニカルコンダクター)コース(TC 課程)」, 2024 年 4 月~在学中

外部資金

職員が関わった外部資金採択の実績は以下の通りで、連名の場合には職員氏名を野線付きで示す。

1. 名嘉海人: 「無線 ACM センシングシステムの実運用環境構築」, 科研費奨励研究(課題番号: 23H052122), 2023 年 4 月~2024 年 3 月
2. 藤本真悟, 明正大純: 「魚類のサイズに依存した産卵投資を決める遺伝子の探索(課題番号: 24K09610)」, 科学研究費・基盤研究 C, 2024 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日
3. 佐藤行人, 藤本真悟, 高橋健造: 「先端医学研究基盤となる汎用ヒトゲノム解析サービスパイプラインの構築」, 琉球大学医学部・先端医学研究センター, 年度 先端医学研究支援事業, 2024 年 10 月 4 日~2025 年 3 月 31 日
4. 新垣美香: 2023 年度科研費(奨励研究 23H05227)「新たな地域ブランド品としてのコーヒーの生育特性と品質の解析」
5. 新垣美香: 2024 年度科研費(奨励研究 24H02593)「国産コーヒーの品質向上を目的としたフードミクス解析と最適栽培条件の検証」
6. 屋良朝宣: 2023 年度科研費(奨励研究 23H05242)「野生鳥類の畜舎内飼槽への侵入パターン解明と侵入抑制方法の確立」
7. 泉水仁: 2023 年度科研費(奨励研究 23H05077)「沖縄型探究活動を支援する除湿水からの簡易純水製造装置の開発」
8. 福本晃造, 中川鉄水, 鶴井香織, 泉水仁: 2024 年度 琉球大学共創の場形成支援 COI-NEXT プロジェクト「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステナブル陸上養殖のグローバル拠点」

研修

職員の研修受講実績を以下に示す。

1. 廣瀬孝三郎, 名嘉海人:「令和 6 年度オンライン英語研修」, オンライン
2. 廣瀬孝三郎:第 19 回沖縄地区メンター養成研修, オンライン
3. 廣瀬孝三郎, 泉水仁, 田中茂樹:令和 6 年度 九州地区国立大学法人技術専門職員・中堅技術職員研修, 長崎大学
4. 安江洋人, 我如古将斗, 渡慶次高也, 仲宗根宏貴, 大城諒士:「九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修 A
5. 山里夏海:「基礎 DNA 実験講習会」, 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟内研究室, 2024 年 10 月 25 日, 11 月 1 日, 11 月 15 日 (3 日間)
6. 山田裕子, 赤嶺千秋:「DNA 実技講習会 (DNA 抽出・PCR・シーケンシング)」, 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟内研究室, 2024 年 9 月 12~14 日 (3 日間)
7. 町田貴和子, 大江萌那, 山里夏海, 山田裕子, 赤嶺千秋, 上原恵, 屋良朝宣, 勢理客勝則, 泉水仁, 上地悠紀子, 翁長竜盛, 町田夏紀, 山下大輔, 名嘉秀和, 新垣美香, 大城郁子, 渡慶次高也, 鹿谷梓二, 宗本久弥:「食育 SAT システム研修」, 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3 階会議室, 2024 年 7 月 19 日
8. 大江萌那, 町田貴和子, 山里夏海:「デジタルイメージングの基礎」, 農学部 208 教室, 2024 年 10 月 22 日
9. 大江萌那, 町田貴和子, 山里夏海:「ハンズオンセミナー」, 農学部 438 顕微鏡室, 2024 年 10 月 23 日
10. 山里夏海:「農業技術研修」, 農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター, 2025 年 3 月 26 日
11. 屋良朝宣, 鈴木詩織, 高津里佳:「動物実験に関する教育訓練」, 琉球大学農学部, 2024 年 9 月
12. 屋良朝宣, 村田正将, 鈴木詩織:「黒毛和種の遺伝的能力評価の説明会 (講師:佐々木慎二)」, 琉球大学農学部, 2024 年 4 月 2 日
13. 宗本久弥:高压ガス製造保安係員(一般)法定義務講習 2023 年 10 月
14. 宗本久弥:高压ガス保安協会「高压ガス保安法の許可、届出に係る運用と解釈」説明会 2023 年 12 月
15. 宗本久弥:低温工学・超電導学会 冷凍部会「安全と教育」2023 年 12 月
16. 宗本久弥:高压ガス保安協会「保安検査のポイントと事例紹介」セミナー 2024 年 2 月
17. 宗本久弥:低温工学・超電導学会 冷凍部会「希釈冷凍機の基礎と活用」2024 年 7 月
18. 宗本久弥:低温工学・超電導学会 冷凍部会「液体水素冷却超電導回転機と水素の最新安全規制動向」2024 年 12 月
19. 宗本久弥:沖縄県高压ガス保安協会 圧縮空気及びナイトロックス製造事業所保安講習会 2024 年 12
20. 町田夏紀:「食育システムの研修」, 2024 年 7 月 19 日
21. 町田夏紀:「IT スキルハンズオン研修」, 2024 年 11 月 28 日
22. 町田夏紀:「生成 AI と VBA を活用した業務効率化勉強会」, 2024 年 12 月 6 日
23. 町田夏紀:「明日から自分の大学で使える PowerApps / PowerBI を用いた大学業務支援システム開発講座」, 2025 年 3 月 13 日
24. 名嘉秀和:第 50 回沖縄地区係長研修, 2024 年 10 月 2 日~10 月 4 日

25. 古謝源太:「TC カレッジ」中級カリキュラム 分光法(蛍光)」, オンライン, 2023 年 10 月 20 日
26. 古謝源太:「TC カレッジ」令和 5 年度セミナー(技術・研究支援概論 1)」, オンライン, 2023 年 10 月 26 日
27. 古謝源太:「TC カレッジ」中級カリキュラム 分光法(ラマン)」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス, 2023 年 11 月 2 日
28. 古謝源太:「TC カレッジ」中古機器バラシキャラバン隊」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス, 2023 年 11 月 14 日～17 日
29. 古謝源太, 玉城蛍:「OIST-琉球大学」化学物質管理、実験廃液・廃棄物管理に関する意見交換及び施設見学」, 沖縄科学技術大学院大学, 2023 年 11 月 28 日
30. 古謝源太:「第 39 回大学等環境安全協議会技術分科会」大学等における化学物質管理システムの活用状況と今後の展望」ほか」, 広島大学東広島キャンパス, 2023 年 11 月 29 日～12 月 1 日
31. 古謝源太:TC カレッジ「令和 5 年度 TC カレッジシンポジウム」, オンライン, 2024 年 1 月 23 日
32. 古謝源太:「TC カレッジ」中級カリキュラム X 線光電子分光分析装置」, オンライン, 2024 年 1 月 25 日
33. 古謝源太:「TC カレッジ」TM 認定式・TX 向上委員会」, 東京工業大学すずかけ台キャンパス, 2024 年 3 月 11 日～12 日
34. 古謝源太:「私立大学等環境安全協議会」化学物質管理者講習に準ずる講習」第 40 回総会・研修会」, 早稲田大学早稲田キャンパス, 2024 年 3 月 13 日～14 日
35. 古謝源太:「筑波大学環境安全管理室 令和 6 年度第 1 回つくば会令和 6 年度第 1 回つくば会」, 筑波大学筑波キャンパス, 2024 年 6 月 6 日～7 日
36. 古謝源太:「労働者健康安全機構 沖縄産業保健総合支援センター」化学物質の自律的な管理と作業環境管理」, 沖縄産業支援センター, 2024 年 7 月 19 日
37. 古謝源太:「大学等環境安全協議会 第 17 回実務者連絡会技術研修会」マスクフィットテストをやってみよう」, 名古屋大学東山キャンパス, 2024 年 9 月 5 日
38. 古謝源太:「第 17 回化学物質管理担当者連絡会」, 2024 年 9 月 6 日
39. 古謝源太:「令和 6 年度 CRIS ユーザー会」, 島津福岡ビル, 2024 年 11 月 29 日
40. 古謝源太:「私立大学等環境安全協議会」保護具着用管理責任者講習」第 41 回総会・研修会」, 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス, 2025 年 3 月 12 日～13 日
41. 儀間真一, 鹿谷梓二, 玉城蛍, 豊田颯太:「蛍光 X 線分析装置講習会」, 研究基盤統括センター, 2024 年 9 月 26～27 日.

出張

総合技術部の予算を執行した出張について示す。

総合技術部予算を執行した出張一覧

出張者	出張日	出張内容
鹿谷梓二, 上地飛夢, 我如古将斗, 淵脇秀晃, 東舟道裕亮, 廣瀬孝三郎	2024/6/13	ものづくりネットワーク沖縄との技術講習会に参加するため
屋良朝宣	2024/7/4	瀬底研究施設で JAXA 職員と意見交換等を行うため
勢理客勝則, 田邊泰佳, 鹿谷梓二, 廣瀬孝三郎	2024/7/11	ものづくりネットワーク沖縄と今後の連携に関する打合せを行うため
泉水仁	2024/7/19	OKINAWA バイオコミュニティマッチングカンファレンス 2024 に参加するため
渡慶次高也, 玉那覇厚雄, 大城諒士, 照屋泰彦, 名嘉秀和, 廣瀬孝三郎, 豊田颯太, 小林夏樹, 石川雄大, 茅野太紀, 上地悠紀子	2024/7/26	宜野湾市立中央公民館主催の夏休み講座「LED ランタンづくり」の講師又は同講座の状況調査のため
大城彩, 田邊恭佳	2024/8/8 ～8/9	沖縄科学技術大学院大学で行われるシャドウイング研修に参加するため
廣瀬孝三郎, 東舟道裕亮	2024/8/26 ～8/30	ICT 実習基本コース受講のため
大城諒士, 玉那覇厚雄, 照屋泰彦, 仲宗根宏貴, 與那覇敏明, 淵脇秀晃, 我如古将斗, 豊田颯太, 石川雄大	2024/8/31	ひだまり学童 CLUB(中城小)で「親子で楽しむ!ものづくり工作教室!」を開催するため
高津里佳	2024/9/2 ～9/4	農業安全研修農業機械基礎技術コースⅡに参加するため
上地悠紀子, 大城彩	2024/9/4 ～9/6	今日から始めるゲノム編集(CRISPR/Cas9)ハンズオントレーニング(1 日半コース)を受講するため
嘉手納丞平, 金城孝則, 伊敷七美, 茅野太紀	2024/10/21 ～10/23	フィールド技術グループ研修会に参加するため。

総合技術部予算を執行した出張一覧

出張者	出張日	出張内容
山下大輔	2024/11/7 ～11/9	衛生管理者のための作業環境測定士試験一部 免除講習を受講するため
金城孝則, 神座森	2024/11/9	琉大 iTec フェスタ開催運営のため
我如古将斗, 安江洋人, 渡慶次高也, 大城諒士, 山下大輔, 仲宗根宏貴, 名嘉海人	2024/11/11	沖縄職業能力開発大学校で「組込み技術者の ためのプログラミング」を受講するため
幸喜海利, 上地飛夢	2024/11/15 ～11/17	秋田大学第 16 回テクノフェスタ 2024 を 視察するため
我如古将斗, 安江洋人, 渡慶次高也, 大城諒士, 山下大輔, 仲宗根宏貴, 名嘉海人	2024/11/18	沖縄職業能力開発大学校で「組込み技術者の ためのプログラミング」を受講するため
我如古将斗, 安江洋人, 渡慶次高也, 大城諒士, 山下大輔, 仲宗根宏貴, 名嘉海人, 翁長竜盛	2024/12/2	沖縄職業能力開発大学校で「センサを活用した IoT アプリケーション開発技術」を受講するため
我如古将斗	2024/12/11 ～12/14	2024 年度工作技術交流会 in 金沢大学に参加 するため
渡慶次高也, 仲村大, 高津里佳	2024/12/21	勝連地区公民館で「冬の親子工作教室(LED ランタン－アクアリウム)」を実施するため
我如古将斗, 安江洋人, 渡慶次高也, 大城諒士, 山下大輔, 仲宗根宏貴, 名嘉海人, 翁長竜盛	2024/12/23	沖縄職業能力開発大学校で「センサを活用した IoT アプリケーション開発技術」を受講するため
大城諒士, 大江萌那, 上地悠紀子	2025/1/26	うるま市産業まつりでの出前講座開催のため
泉水仁	2025/1/30	南星中学校での特別授業実施のため
勢理客勝則, 屋良朝宣	2025/2/17 ～2/18	九州工業大学にて開催された九州地区国立大 学法人技術長会議に参加するため
勢理客勝則	2025/2/26 ～2/28	香川大学にて開催された第 8 回大学技術職員 組織研究会に参加するため
廣瀬孝三郎, 渡慶次高也, 大城諒士, 花城有人, 宗本久弥	2025/3/4 ～3/8	筑波大学にて開催された総合技術研究会 2025 筑波大学に参加するため

地域貢献活動

公開講座

公開講座の実績は以下のとおりである。連名の場合には、罫線付きの氏名は講座の主担当者を、氏名後ろのカッコ書きは総合技術部の所属グループを示している。

1. 翁長竜盛(情報), 名嘉秀和(情報), 小林夏樹(情報): 「夏休み工作教室ーデスクトップ PC 組み立て・LAN ケーブル制作体験」, 2024.07.27, 琉球大学工学部, 8 名
2. 仲宗根宏貴(電気電子), 廣瀬孝三郎(建設基盤), 安江洋人(設計製作): 「夏休み工作教室ーミラクル万華鏡」, 2024.07.27, 琉球大学工学部, 10 名
3. 渡慶次高也(電気電子), 大城諒士(電気電子), 玉那覇厚雄(電気電子): 「夏休み工作教室ー電気工事を体験しよう(小学生対象コース)」, 2024.07.27, 琉球大学工学部, 10 名
4. 渡慶次高也(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子), 玉那覇厚雄(電気電子): 「夏休み工作教室ー電気工事を体験しよう(中学生対象コース)」, 2024.07.27, 琉球大学工学部, 8 名
5. 淵脇秀晃(建設基盤), 廣瀬孝三郎(建設基盤), 東舟道裕亮(建設基盤), 豊田颯太(建設基盤), 屋比久祐盛(建設基盤): 「夏休み工作教室ー折り紙建築」, 2024.08.03, 琉球大学工学部, 7 組
6. 大城諒士(電気電子), 玉那覇厚雄(電気電子), 渡慶次高也(電気電子): 「夏休み工作教室ーホバークラフト」, 2024.08.03, 琉球大学工学部, 8 名
7. 勢理客勝則(電気電子), 大城諒士(電気電子), 渡慶次高也(電気電子), 山下大輔(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子): 「第二種電気工事士試験対策講習(技能・上期)」, 2024.06.01～07.13(全 8 回), 琉球大学工学部, 15 名
8. 勢理客勝則(電気電子), 大城諒士(電気電子), 渡慶次高也(電気電子), 山下大輔(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子): 「第二種電気工事士試験対策講習(技能・下期)」, 2024.11.02～12.14(全 8 回), 琉球大学工学部, 16 名
9. 渡慶次高也(電気電子), 大城諒士(電気電子): 「第一種電気工事士試験対策講習(技能)」, 2024.10.26～11.30(全 6 回), 琉球大学工学部, 3 名

出前講座

出前講座の実績は以下のとおりである。連名の場合において、氏名下の野線は講座の主担当者を、氏名後ろのカッコ書きは総合技術部の所属グループを示している。

1. 渡慶次高也(電気電子), 玉那覇厚雄(電気電子), 大城諒士(電気電子), 廣瀬孝三郎(建設基盤), 豊田颯太(建設基盤), 名嘉秀和(情報), 小林夏樹(情報), 照屋泰彦(設計製作), 石川雄大(設計製作):「LED ランタン作り」, 2024.07.26, 宜野湾市立博物館, 15 組
2. 町田貴和子(食とヘルスケア), 大江萌那(食とヘルスケア), 山里夏海(食とヘルスケア), 町田夏紀(情報), 新垣美香(フィールド技術), 茅野太紀(フィールド技術):「科学を学ぼう!サイエンスクッキング」, 2024.08.10, 辺土名小学校, 10 組
3. 渡慶次高也(電気電子), 大城諒士(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子), 安江洋人(設計製作), 我如古将斗(設計製作):「ホバークラフト」, 2024.08.25, 琉球大学工学部, 19 名
4. 渡慶次高也(電気電子), 大城諒士(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子), 安江洋人(設計製作), 我如古将斗(設計製作):「回り続けるコマ」, 2024.08.25, 琉球大学工学部, 15 名
5. 大城諒士(電気電子), 玉那覇厚雄(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子), 照屋泰彦(設計製作), 與那覇敏明(設計製作), 淵脇秀晃(建設基盤), 豊田颯太(建設基盤), 我如古将斗(設計製作), 石川雄大(設計製作):「ホバークラフト・折り紙建築」, 2024.08.31, ひだまり学童 CLUB(中城小学校), 19 名
6. 淵脇秀晃(建設基盤), 照屋泰彦(設計製作), 石川雄大(設計製作), 我如古将斗(設計製作), 豊田颯太(建設基盤):「折り紙建築」, 2024.11.03, 嘉手納町役場, 46 組
7. 渡慶次高也(電気電子), 仲村大(機器分析), 高津里佳(フィールド技術):「LED ランタン作り」, 2024.12.21, うるま市勝連図書館, 6 組
8. 渡慶次高也(電気電子), 伊敷七海(フィールド技術), 屋良朝宣(フィールド技術), 茅野太紀(フィールド技術), 山下大輔(電気電子), 山里夏海(食とヘルスケア), 上地悠紀子(生物・生体技術), 新垣美香(フィールド技術), 石川雄大(設計製作), 泉水仁(機器分析), 大江萌那(食とヘルスケア), 大城諒士(電気電子), 仲宗根宏貴(電気電子), 町田夏紀(情報), 町田貴和子(食とヘルスケア), 淵脇秀晃(建設基盤), 高津里佳(フィールド技術):「うるま市産業まつり:ホバークラフト, ミラクル万華鏡, はたらく乗り物」, 2025.01.25~26, うるま市
9. 野澤洋耕, 神座森(フィールド技術):「第 1 回瀬底研究施設-本部町ダイビング協会情報交換会」, 瀬底研究施設, 2024.1.16
10. 濱本耕平, 神座森(フィールド技術):「瀬底島にある海の研究施設を探れ!」, 瀬底研究施設 2024.2.4
11. 高橋俊一, 野澤洋耕, 波利井佐紀, 守田昌哉, 嘉手納丞平(フィールド技術), 神座森(フィールド技術):「施設一般公開 大学の研究施設ってどんなところ?」, 瀬底研究施設, 2024.2.23
12. 神座森(フィールド技術):「瀬底ビーチの磯観察」, 瀬底島, 2024.5.7
13. 神座森(フィールド技術):「わったー瀬底島!」, 瀬底小学校, 2024.6.4
14. 神座森(フィールド技術):「シュノーケリングサンゴ観察」, 瀬底島, 2024.7.4
15. 神座森(フィールド技術):「技術職員ってどんな仕事?」, 瀬底小学校, 2024.9.25
16. 波利井佐紀, 神座森(フィールド技術):「サンゴってなに?」, 瀬底研究施設, 2024.12.21

17. 佐藤初, 神座森(フィールド技術):「第 2 回瀬底研究施設-本部町ダイビング協会交流会」,瀬底研究施設,2025.2.26
18. 野澤洋耕, 高橋俊一,波利井佐紀,守田昌哉,嘉手納丞平(フィールド技術),神座森(フィールド技術),「施設一般公開 大学の研究施設を見てみよう!」,瀬底研究施設,2025.3.20

琉大 iTec フェスタ

琉大 iTec フェスタ

2024 年 11 月 9 日(土)に琉球大学千原キャンパスの亜熱帯島嶼科学拠点研究棟周辺にて第 1 回「琉大 iTec フェスタ」を開催した。琉大 iTec フェスタとは、主に地域の小学生へ、技術や科学の面白さを知ってもらい、次世代の科学技術人材として育てていくことを目指して技術職員が行ったものである。イベント当日、朝は激しい雨が降り開催が危ぶまれるほどだったが、昼までには雨が上がり、イベントには 73 組の親子、92 名の子供達が参加した。開催日当日は 11 種類の企画テーマ(写真参照)を用意してそれぞれに複数の技術職員が対応し、参加した子供たちが歓声を上げながら各テーマに取り組んでいた。今回の琉大 iTec フェスタには千原キャンパスや上原キャンパスだけでなく、国頭村与那や本部町瀬底にある本学の施設からも技術職員が駆け付け、約 49 名で取り組んだ。さらにイベント当日には参加できなかったが、事前準備や開催後に協力していただいた職員数を合わせると総勢 63 名(職員数の 75%)の協力が得られて本イベントを開催することができた。琉大 iTec フェスタでは新しい技術や機器類、さらには本学で飼育しているヤギに触れ合える体験など、総合技術部ならではの企画となった。また、今回は技術職員が自分達の役割についても新たな感触を掴む機会となった。本イベントの企画、準備および開催に関わった職員が同じ時間、同じ困難を共有し克服したことで、組織の協力体制向上に繋がる貴重な機会になったと考えられる。

参加者アンケートの回答結果について

参加した子どもの学年は低学年(1-3 年生)が多かった(図 1)。イベントを知ったきっかけは、「ロコミ」とする回答が 36 人(全体の 42%)と最も多かった(図 2)。「参加したテーマは楽しかった」とする子どもの回答が 93%あり(図 3)、保護者についてもほぼ 100%に近い保護者から「そう思う」と回答があった(図 4)。アンケートの結果から、イベントに参加した多くの子どもとその保護者にイベントが好評だったと感じられた。

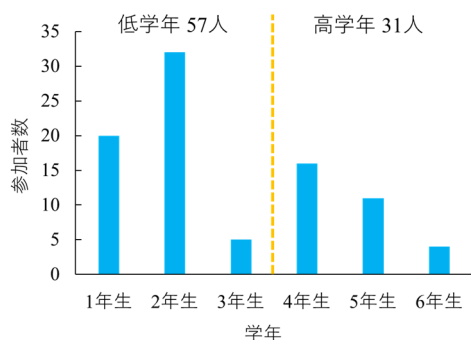


図 1 参加者の学年分布 (n=89)

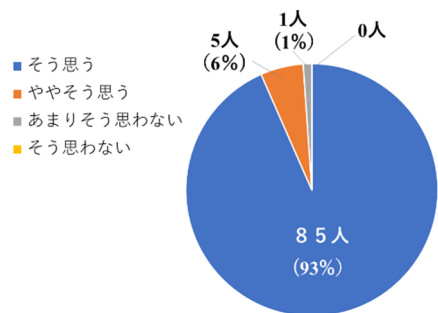


図 3 参加したテーマは楽しかったですか？
(子ども回答 n=91)

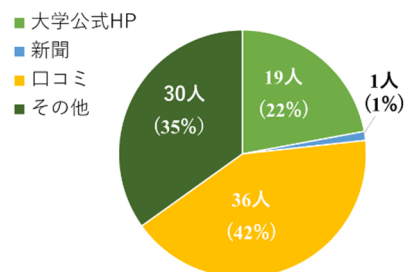


図 2 イベントを知ったきっかけ
(保護者回答 n=85)

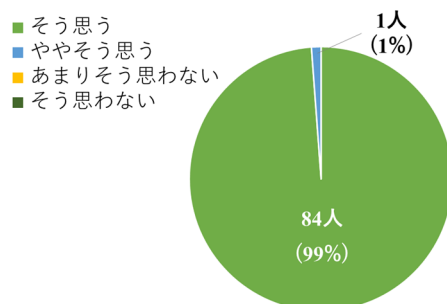
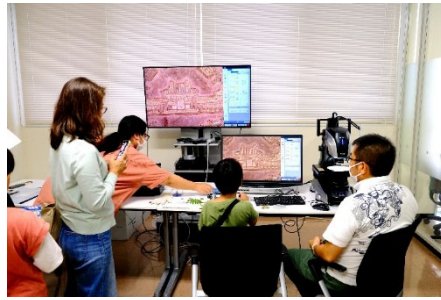


図 4 お子さんを参加させて良かったと思いますか？ (保護者回答 n=85)



テーマ 1

キッチンで身近な食べ物の
DNA を取り出そう



テーマ 2

顕微鏡で見るミクロな世界！



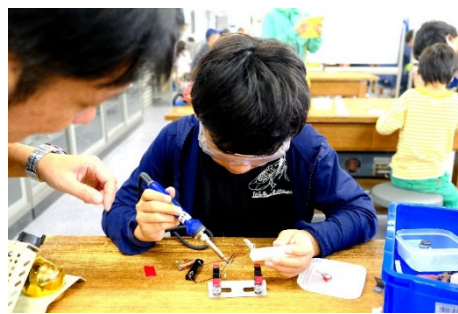
テーマ 3

ものづくり工作教室
ホバークラフト



テーマ 4

ものづくり工作教室
ミラクル万華鏡



テーマ 5

ものづくり工作教室
まわり続けるコマ



テーマ 6

ものづくり工作教室
電気工事体験



テーマ 7

ものづくり工作教室
折り紙建築



テーマ 8

超低温実験体験



テーマ 9

ワイルド・ワンダーランド
サンゴや海の生き物紹介



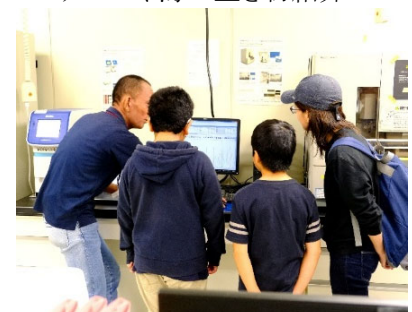
テーマ 9

ワイルド・ワンダーランド
クロツグ熱帯魚づくり



テーマ 10

新しい『体験型』食事診断



テーマ 11

大学の実験室見学

入場無料 **琉大iTec** **11/9** **13:00~16:30**
フェスタ (受付12:30~)

対象：小学生
 定員：100名(事前申し込み)
 会場：琉球大学千原キャンパス
 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟周辺

ワイルド・ワンダーランド
 ~自然の驚異と不思議を探求~

超低温実験体験

楽しんで、のせて、サッと！わかる
 新しい『体験型』食事診断☆

キッチンで身近な食べ物の
 DNAを取りだそう

親子で楽しむ！ものづくり工作教室
 100パーセント、ミラクル万原紙
 まわりでつくるコマ、電気工作体験、折り紙教室

顕微鏡で見るミクロな世界

／この他にも様々な展示やイベントがあります／

主催：琉球大学総合技術部
 共催：琉球大学研究基盤統括センター

お問い合わせ先
 琉球大学総合技術部マネジメント室
 TEL：098-895-9131
 Mail：ritec@acs.u-ryukyu.ac.jp

参加申込フォーム

大学案内マップ

琉大 iTec フェスタ参加募集・案内フライヤー



会場周辺の様子



総合受付(工学部2号館)の様子



イベント当日の集合写真(イベント開始直前)

iTec 報告会

琉大 iTec 報告会の概要

琉大 iTec 報告会では、様々な分野で業務に従事している技術職員の、教育研究支援に係る取り組み・挑戦・工夫・課題などを幅広いテーマで自由に発表し、日ごろの業務等について新たな発見・発展へつながっていくことを目的に開催している。また、多くの総合技術部の技術職員が参加することで、この場を通じて技術職員同士の横のつながりを深められる場としても提供している。

iTec 報告会の概要

発表回	発表者	発表タイトル
第 1 回 2024 年 1 月 18 日 (木)	小林夏樹	パスワードのはなし
	新垣美香	千原フィールドの紹介と業務内容について
	上原春香	保健学科 看護コースの技術職員について
第 2 回 2024 年 2 月 15 日 (木)	大城成栄	設計製作グループの紹介
	古謝源太	不要試薬のはなし
	宮城恵利子	技術職員としての歩み
第 3 回 2024 年 3 月 21 日 (木)	仲宗根宏貴	地域貢献活動について
	石垣圭一	西表研究施設紹介と業務内容
	大城郁子	保健学科技術職員の沿革
第 4 回 2024 年 4 月 18 日 (木)	石川雄大	鍛造
	大江萌那	健康栄養コースと業務内容紹介
	上地飛夢	教育学部での業務紹介・公開講座の報告
第 5 回 2024 年 5 月 16 日 (木)	庄司博光	情報基盤統括センターの紹介
	上原一郎	与那フィールドの紹介
	中島竜之	動物実験施設の業務について
第 6 回 2024 年 6 月 20 日 (木)	淵脇秀晃	建設基盤グループの紹介
	宗本久弥	新入生向け「極低温施設の紹介」の紹介
	守屋良夫	本学附属図書館を活用した英語多読のススメ
第 7 回 2024 年 7 月 18 日 (木)	山下大輔	電気電子グループの紹介
	嘉手納丞平	瀬底研究施設紹介と業務内容について
	上地悠紀子	RI 実験施設の廃止にあたって
第 8 回 2024 年 8 月 15 日 (木)	我如古将斗	教育支援業務の紹介
	赤嶺千秋	保健学科技術支援室での業務紹介
	森安牧子	研究室での業務について
第 9 回 2024 年 9 月 19 日 (木)	町田夏紀	地域貢献活動・子どもサイエンスについて
	屋良朝宣	業務紹介
	譜久嶺忠彦	献体業務について

iTec 報告会の概要

発表回	発表者	発表タイトル
第 10 回 2024 年 10 月 17 日(木)	安江洋人	CAD を用いた業務事例紹介
	玉城 蛍	安全な廃液回収のために
	鹿谷 梓二	アルクネットアカデミーネクストのススメ
第 11 回 2024 年 11 月 21 日(木)	渡慶次高也	今年度の新たな取り組みについて
	井村信弥	西表技術職員の自己紹介と業務紹介
	田邊恭佳	臨床検査技師養成のカリキュラム変更について
第 12 回 2024 年 12 月 19 日(木)	廣瀬孝三郎	業務紹介および今後の取り組み
	町田貴和子	自己紹介および業務内容について
	宮国サユリ	法医学講座の紹介
第 13 回 2025 年 1 月 16 日(木)	翁長竜盛	自己紹介・最近の業務紹介
	泉水 仁	業務紹介 ～機器・設備の全学共用化プロジェクトを通して得られたこと～
	大城 彩	OIST での技術交流・研修について
第 14 回 2025 年 2 月 20 日(木)	名嘉海人	Fusion 360 による機電設計の試み
	鈴木詩織	ノーコード自動化ツールを用いた子牛の飼養管理におけるデータ活用
	泉水 仁	PowerBI の活用事例紹介
第 15 回 2025 年 3 月 27 日(木)	玉那覇厚雄	くだらないこと？～私には大事なこと～
	神座森	業務紹介とリスクマネジメント
	玉城和美	定年退職を間近にして思うこと
	平良喜彦	琉大職員としての 37 年

研究助成プログラム

研究助成プログラムに採択された技術研修は以下のとおりである。

研究助成プログラム採択一覧

氏名	研修名	研修場所
高津里佳	令和 6 年度 農作業安全研修 農業機械基礎技術コースⅡ (乗用型トラクター1)	農林水産研修所 つくば館
上地悠紀子	今日から始めるゲノム編集 (CRISPR/Cas9) ハンズオントレーニング	東京都 港区
大城彩		
廣瀬孝三郎	ICT 実習基本コース (福島 AtosVillage)の受講	福島県 白河市
東舟道裕亮		
山下大輔	①組込み技術者のための プログラミング ②センサを活用した IoT アプリケーション開発技術	沖縄市 沖縄職業能力 開発大学校
渡慶次高也		
大城諒士		
仲宗根宏貴		
名嘉海人		
我如古将斗		
安江洋人		
翁長竜盛 (②のみ参加)		

資格取得

2023 年 10 月から 2025 年 3 月までの資格等の取得実績

資格	
テールゲートリフター特別教育	安全運転管理者
二等無人航空機操縦士 (基本、目視内限定解除)	フルハーネス型墜落制止用器具作業業務 特別教育
小型車両系建設機械特別教育 (整地・運搬・積込み用及び掘削用)	PADI TEC DAVER Tec40
労働安全衛生特別教育 (刈払機取扱作業教育)	動物実験等実施に関する講座
エックス線作業主任者	情報セキュリティマネジメント
小型車両系建設機械特別教育 (整地・運搬・積込み用及び掘削用)	第 1 種衛生管理者資格試験
自由研削といしの取替等業務特別教育	粉じん作業従事者特別教育
フォークリフト運転技能講習	

2024 年度活動報告書 WG

大城 諒士(WG 長), 山下 大輔, 名嘉 秀和, 淵脇 秀晃, 與那覇 敏明, 嘉手納 丞平, 大江 萌那,
上地 悠紀子, 上地 飛夢, 幸喜 海利, 仲村 大, 玉城 蛍, 守屋 良夫, 儀間 真一, 翁長 竜盛,
東舟道 祐亮, 高津 里佳, 茅野 太紀, 鹿谷 梓二, 泉水 仁, 屋良 朝宣 (敬称略)

琉球大学総合技術部活動報告書 第 1 集 2025 年 6 月発行

編集 琉球大学総合技術部活動報告書 WG
発行 琉球大学総合技術部

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1
URL : <https://itec.skr.u-ryukyu.ac.jp/itecweb/>
Mail : ritec@acs.u-ryukyu.ac.jp